工 文化財保護担当



文 化 財 保 護 担 当 目 次

1 文化財保護審議会	2 2
(1)活動状況	
(2) 文化財保護審議会委員名簿	
2 指定文化財および登録文化財	2 4
(1) 茅ヶ崎の指定文化財マップ	
(2) 国・県・市指定文化財一覧	
(3) 指定文化財の概要	
(4) 国登録有形文化財	
3 保存管理	3 3
(1) 市指定文化財保存管理	
(2) 文化財パトロール	
(3) 説明板設置	
(4) 郷土芸能伝承事業	
(5) 文化財保存用地管理	
(6) 文化財保護に関する啓発	
4 普及事業	3 4
(1) 第48回茅ヶ崎市郷土芸能大会	
(2) 文化財講演会	
5 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業	3 4
(1) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト活動状況	
(2) 企画展「お届けエコミュージアム!おうちで"丸ごと博物館"」	
(3) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座(基礎編)	
(4) まち歩き企画	
(5) サイン設置事業	
(6) 広報活動	
(7) ウェブサイト MaruhakuTV	
(8) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会の活動	
(9) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会の活動	
(10) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館のシンボルマークの活用	
3 史跡・遺跡整備事業	3 7
(1) 国指定史跡・天然記念物 旧相模川橋脚保存活用事業	
(2) 国指定史跡 下寺尾官衙遺跡群・下寺尾西方遺跡保存活用事業	
アー下寺尾遺跡群保存・活用部会	
イー史跡確認調査事業	
ウー公開普及等	
エー資料整理・調査	
7 埋蔵文化財	4 5
(1) 保護管理事業	
(2) 試掘·確認調査	
(3) 開発に伴う発掘調査	5 0
(4) 立会調査等	
(5)会議等	
ア 市町村埋蔵文化財保護行政連絡協議会	

イ 県・市町村埋蔵文化財検討分科会	
(6) 出土品資料等整理	
ア 出土品資料等収蔵整理	
イ 公共事業に伴う発掘調査・報告書作成	
(7) 普及・啓発	5 3
アー茅ヶ崎市遺跡調査発表展示会	
イー講師対応	
(8) 刊行物	
(9) 資料貸出·使用承認	
(10) 文化財資料の管理	
(11) 関係図書資料の交換・寄贈	5 6

1 文化財保護審議会

(1)活動状況

令和2年 7月10日(金) 第1回文化財保護審議会

- 1 会長・副会長の選出について
- 2 市指定重要文化財の指定について
- 3 令和2年度文化財保護事業計画について
- 4 鶴嶺八幡宮参道及び松並木の現状変更について
- 5 令和元年度文化財保護事業報告について その他

7月17日(金) 第1回文化財保護審議会下寺尾遺跡群等保存・活用部会

- 1 令和2年度史跡保存・整備事業について
- 2 史跡下寺尾西方遺跡の追加指定に係る意見具申について
- 3 令和元年度史跡確認調査および令和2年度史跡確認調査計画について
- 4 史跡指定地内における現状変更の計画について その他

12月11日(金) 第2回文化財保護審議会

- 1 市指定重要文化財の指定答申案について
- 2 (仮称) 茅ヶ崎市歴史文化交流館整備事業について
- 3 茅ヶ崎市遺跡調査発表会について

その他

・国史跡「下寺尾西方遺跡」指定範囲拡大の答申について

3月15日(月) 第2回文化財保護審議会下寺尾遺跡群等保存・活用部会

1 令和2年度史跡確認調査の現地視察について その他

(2) 文化財保護審議会委員名簿

①任期2年(平成2年7月1日~令和4年6月30日)

②任期2年(令和元年10月1日~令和3年9月30日)

氏 名	区 分	備考
近藤英夫	考古学	会 長 任期①
相 澤 正 彦	日本美術	副会長 任期①
緒方隆	自然	任期①
岡崎孝夫	民俗	任期①
五味文彦	歴史学	任期①
田尾誠敏	史跡整備・考古学	任期②
宮 瀧 交 二	博物館学・古代史	任期②

[※]下寺尾官衙遺跡群の保存・管理計画を定めていくにあたり、平成27年9月議会にて茅ヶ崎市附属機関 設置条例を改正、委員の数を5人以内から7人以内とし、史跡整備及び古代史に係る学識経験者を委員 として委嘱した。

文化財保護審議会特別委員名簿

①任期2年(令和元年10月1日~令和3年9月30日)

②任期2年(令和元年6月1日~令和3年5月31日)

氏 名	区 分	備考
荒井秀規	古代史	任期①
岡本孝之	考古学	任期①
佐 藤 次 男	下寺尾自治会	市民任期①
箱 崎 和 久	建築史	任期①
寺 前 直 人	考古学	任期②

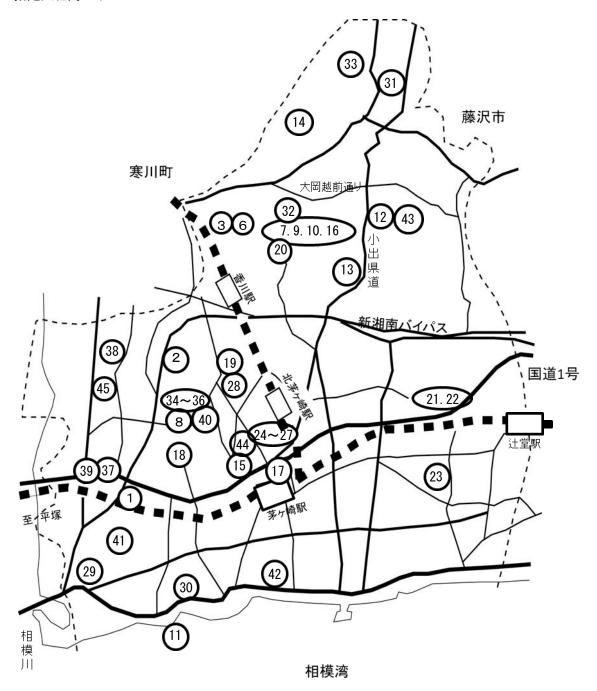
文化財保護審議会下寺尾遺跡群保存・活用部会

氏 名	区 分	備考
近藤英夫	考古学	
五 味 文 彦	歴史学	
田尾誠敏	史跡整備・考古学	
宮 瀧 交 二	博物館学・古代史	
荒井秀規	古代史	
岡 本 孝 之	考古学	
佐 藤 次 男	下寺尾自治会	市民
箱 崎 和 久	建築史	
寺 前 直 人	考古学	

※茅ヶ崎市文化財保護審議会規則を改正し、教育委員会は、特別の事項を調査審議するため必要があると 認めるときは、審議会に特別委員を置くことができることとした。また、審議会は、特別の事項を調査 審議するため、部会を置くことができることとした。(平成27年10月1日より施行)

2 指定文化財および登録文化財

(1)茅ヶ崎の指定文化財マップ



※4~6は個人所有のため記載していません

(2) 国・県・市指定文化財一覧

(国指定7件 県指定9件 市指定30件)

番号	区 分	名称	指定年月日	種 別	所 在 地	
1	国指定	旧相模川橋脚	大正15. 10. 20	史跡	下町屋1-551-2	
	IJ	II	平成25. 3.27	天然記念物	"	
2	"	宝生寺の銅造阿弥陀三尊立像	昭和34. 6.27	重要文化財	西久保546	
3	"	 下寺尾官衙遺跡群	平成27. 3.10	史跡	下寺尾字西方	
4	"	短刀 銘 安吉 1口	昭和32. 2.19	重要文化財	個人所有	
5	"	短刀 銘 江州甘呂俊長 1口	昭和33. 2. 8	重要文化財	個人所有	
6	"	下寺尾西方遺跡	平成31. 2.26	史跡	下寺尾字西方	
7	県指定	浄見寺のオハツキイチョウ	昭和36. 3.14	天然記念物	堤4330	
8	"	鶴嶺八幡のイチョウ	昭和37.10.2	IJ.	浜之郷462	
9	"	浄見寺の銅造弁才天坐像	昭和41.10.25	重要文化財	堤4317	
10	"	浄見寺の寺林	昭和42. 7.21	天然記念物	堤4318 外	
11	"	茅ヶ崎海岸浜降祭	昭和53. 6.23	無形民俗文化財	南湖・西浜海岸	
12	"	堤貝塚	平成 4. 2.14	史跡	堤2719-2	
13	"	八幡大神の庚申塔(承応3年)	平成18. 2.14	有形民俗文化財	甘沼292	
14	"	金山神社の庚申塔(承応4年)	IJ	IJ	行谷766-2	
15	"	神明宮の庚申塔(明暦4年)	IJ	II	十間坂3-9-47	
16	市指定	浄見寺の大岡家一族墓所	昭和36. 2.14	堤4330		
17	"	茅ヶ崎一里塚	昭和36. 8.15	IJ	元町5890	
18	"	鶴嶺八幡宮参道および松並木	鳥嶺八幡宮参道および松並木 昭和44. 8.15 史跡・天然記		浜之郷732 外	
19	"	輪光寺の庚申塔(寛永17年)	IJ	重要文化財	円蔵2238	
20	"	民俗資料館(旧三橋家)	昭和46. 3.26	IJ	堤4318	
21	"	上正寺の木造聖徳太子立像	昭和49. 1.23	IJ.	小和田2-12-73	
22	"	上正寺の旧寛永寺石燈籠	IJ	IJ	小和田2-12-73	
23	"	小和田公民館の旧寛永寺石燈籠	IJ	IJ	美住町6-20	
24	"	市役所前庭の旧寛永寺石燈籠	JJ	IJ.	茅ヶ崎1-1-1	
25	"	市役所前庭の旧寛永寺石燈籠	JJ	IJ.	JJ	
26	"	市役所前庭の旧寛永寺石燈籠	IJ	II.	"	
27	"	市役所前庭の旧寛永寺石燈籠	JJ	IJ.	"	
28	"	圓藏祭囃子	昭和50. 3.24	IJ.	円蔵	
29	"	柳島エンコロ節	昭和51. 1.22	IJ.	柳島	
30	"	南湖麦打唄	昭和54. 3.31	IJ	南湖	
31	"	芹沢焼米搗唄	"	IJ	芹沢	
32	"	民俗資料館(旧和田家)	昭和57. 7.20	<i>II</i>	堤3882 外	
33	"	腰掛神社の樹叢	昭和61. 2.21	天然記念物	芹沢2170 外	
34	"	龍前院の五輪塔十基	昭和62. 4.17	重要文化財	浜之郷356	
35	"	龍前院の庚申塔(明暦3年)	"	II.	"	
36	"	龍前院の梵鐘	<i>"</i>	II.	JJ	
37	"	上国寺の木造日蓮坐像(永正11年)	平成 8.11. 1	II.	今宿488	
38	"	常顕寺の木造日蓮坐像(大永7年)	II.	II.	萩園1441	
39	"	信隆寺の木造日蓮坐像(永禄7年)	II.	II.	今宿841	
40	"	本社宮の庚申塔(明暦2年)	<i>II</i>	"	矢畑142	
41	IJ	藤間家(近世商家)屋敷跡	平成25. 3.15	史跡	柳島 2-6-30	

42	IJ	堤貝塚出土の深鉢形土器	II.	重要文化財	中海岸2-2-18
43	IJ	堤貝塚	平成27. 6. 1	史跡	堤字十二天1467-1
44	IJ	本村居村遺跡出土木簡	IJ	重要文化財	十間坂3-6-17
45	IJ	東川斎桂山筆 源為朝図	令和3. 2. 18	重要文化財	茅ヶ崎市萩園1719

(3) 指定文化財の概要

【国指定文化財】

No.1 旧相模川橋脚 (下町屋1-551-2)

大正15年10月20日 史跡指定(内務省告示第158号)

平成19年2月6日 史跡追加指定(文部科学省告示第12号)

平成25年3月27日 天然記念物指定(文部科学省告示第42号)

大正12年9月1日の関東大震災時に水田の中から木柱が出現したもので、歴史学者の沼田 頼輔博士が、建久9年(1198年)に、源頼朝の重臣、稲毛三郎重成が亡妻の供養のために 架けた橋の橋脚であると考証され、史跡指定を受け保存されてきた。平成13年から19年ま で実施された保存整備に伴う調査で、橋脚が10本であることや、北側に中世土留め遺構があ ることが明らかになった。

また、橋脚の出現状況は関東大震災により発生した液状化現象の様子を示している記念物として評価され、新たに国の天然記念物として指定された。

№2 宝生寺の銅造 阿弥陀如来及両脇侍立像(阿弥陀三尊立像)(西久保546 宝生寺蔵)

昭和34年6月27日 重要文化財指定

善光寺式の阿弥陀如来立像(高さ58.3cm)で、観音、勢至の両脇侍をそなえている。鎌倉期の作とされる優品である。

No.3 下寺尾官衙遺跡群

平成27年3月10日 史跡指定(文部科学省告示第38号)

平成30年2月13日 史跡追加指定(文部科学省告示第18号)

平成31年2月26日 史跡追加指定(文部科学省告示第26号)

小出川を望む標高約13mの相模原台地頂部に位置する相模国(さがみのくに)高座(たかくら)郡家(ぐうけ)(郡衙(ぐんが))と考えられる下寺尾官衙遺跡(西方遺跡)と台地の南裾に位置する下寺尾廃寺(はいじ)跡(七堂伽藍(しちどうがらん)跡)からなる。遺跡の西側では8世紀後半から9世紀前半にかけての船着き場と祭祀場が検出され、寺跡の南東でも祭祀場が検出されているなど、高座郡家に関連する施設が、相模原台地を中心とする比較的狭い範囲に集中していることが確認されている。

郡庁は7世紀末から8世紀前半に成立し、四面廂付(しめんびさしつき)の掘立柱(ほったてばしら)建物である正殿(せいでん)と、脇殿(わきでん)、後殿(こうでん)からなっていたものが、8世紀中頃に改変され9世紀前半に廃絶する。正倉は、郡庁後殿から約100mの空閑地を挟み、台地の北縁に沿って4棟検出されているが8世紀中頃には廃絶している。下寺尾廃寺は、郡庁南西の台地裾の低地に位置する。掘立柱塀による方形の区画の東側北寄りに金堂、西側の中央付近に講堂と考えられる建物を置く伽藍は7世紀後半の創建と考えられ、8世紀中頃以降に大きく改変され9世紀後半に廃絶する。

官衙遺跡の全体像が把握できるとともに、その成立から廃絶に至るまでの過程が確認できる稀有な遺跡であり、地方官衙の構造や立地を知る上で重要である。

No.4 短刀 銘 安吉/(個人蔵)

昭和32年2月19日 重要文化財指定

室町時代。平造(ひらづくり)、ほとんど生ぶ茎(うぶなかご)。寸延びの短刀である。

No.5 短刀 銘 江州甘呂/俊長(個人蔵)

昭和33年2月8日 重要文化財指定

南北朝時代。平造、三ツ棟で内反りのある短刀である。

No.6 下寺尾西方遺跡

平成31年2月26日 史跡指定(文部科学省告示第20号)

令和3年3月26日 史跡追加指定(文部科学省告示第49号)

弥生時代中期後半の「宮ノ台式(みやのだいしき)」期(紀元前1世紀頃)に限られて営まれた環濠(かんごう)集落跡で、新しく拡大された段階では南関東最大級の規模となる。出土遺物には土器のほか石器と鉄器があり、利器が石器から鉄器へ移行していく時期の在り方を示している。南関東における中心的な集落の一つとして位置付けられ、弥生時代中期社会の様相を知るうえで重要である。

【県指定文化財】

No.7 浄見寺のオハツキイチョウ (堤4330 浄見寺墓地)

昭和36年3月14日 天然記念物指定

葉にギンナンが接して結実するイチョウの変種。昭和63年に行われた年輪調査から樹齢は200年前後と推定されているが、浄見寺の創建時に植えられたとも伝えられている。

No.8 鶴嶺八幡のイチョウ (浜之郷462)

昭和37年10月2日 天然記念物指定

鶴嶺八幡社は源頼義の創建と伝えられ、その子義家が戦勝祈願のため手植えしたといわれている。昭和59年「かながわの名木100選」に選ばれている。県内有数の大木である。

No.9 浄見寺の銅造弁才天坐像 (堤4317 浄見寺蔵)

昭和41年10月25日 重要文化財指定

像高11cmの小さな弁才天だが、銅造で六臂をもつ珍しい像とされている。鎌倉時代末期から室町時代にかけて造られたと考えられており、美術的にも優れている。

№.10 浄見寺の寺林 (堤4318外 浄見寺境内)

昭和42年7月21日 天然記念物指定

人為的影響をあまり受けていない樹林の様子を残す寺林として貴重である。タブノキ、モチノキ、スダジイ、アラカシなどの照葉樹が多く見られる。

No.11 茅ヶ崎海岸浜降祭 (南湖・西浜海岸)

昭和36年7月4日 県選択無形民俗資料

昭和51年2月9日 県選択無形民俗文化財

昭和53年6月23日 県指定無形民俗文化財

相模國一之宮寒川神社の神興と、市内各神社の神興が茅ヶ崎の海岸で一堂に会し、みそぎを 行う祭礼。毎年7月に行われる祭礼では、早暁に40基ほどの神輿が海岸をねり歩き、多数の 見物客でにぎわう。

No.12 堤貝塚 (堤2719-2)

平成4年2月14日 史跡指定

相模湾沿岸に残る数少ない縄文時代の貝塚で、後期(紀元前4000年~3500年)の集落址を伴う。規模が大きく、保存状況も良好で、当時の生活を知る上で極めて重要かつ貴重な遺跡である。指定地(地積500㎡)はその一部分である。

No.13 八幡大神の庚申塔(承応3年:1654年)(甘沼292 甘沼八幡大神境内)

昭和61年2月21日 市重要文化財指定

平成18年2月14日 県有形民俗文化財指定(平成18年3月29日市指定解除)

青面金剛像をその表に彫りつける形式の庚申塔の出現期のものである。四臂で、二猿を従えている。同様の庚申塔は今までに7基が知られており、本市の外、平塚市、寒川町、藤沢市に所在する。内1基は年号が分からないが、他は承応2年(1653年)から明暦4年(1658年)の間の年号銘をもつ。この庚申塔は、この7基の内の2番目に古い年号銘をもっている。

№14 金山神社の庚申塔(承応4年:1655年)(行谷766-2 金山神社境内)

昭和61年2月21日 市重要文化財指定

平成18年2月14日 県有形民俗文化財指定(平成18年3月29日市指定解除) 前記した八幡大神の庚申塔と同型式のもの。7基の内の3番目に古い年号銘をもつ。

No.15 神明宮の庚申塔(明暦 4 年: 1 6 5 8 年)(十間坂 3 - 9 - 4 7 神明宮境内)

昭和61年2月21日 市重要文化財指定

平成18年2月14日 県有形民俗文化財指定(平成18年3月29日市指定解除) 前記した八幡大神の庚申塔と同型式のもの。7基の内の6番目に古い年号銘をもつ。

市指定文化財

№16 浄見寺の大岡家一族墓所 (堤4330 浄見寺墓地)

昭和36年2月14日 史跡指定

浄見寺は越前守忠相で有名な大岡家代々の菩提寺で、墓地の一画には初代忠勝からの墓など 約60基が整然と立ち並ぶ。また、毎年4月には忠相の遺徳をしのび大岡越前祭が盛大に催さ れる。

№17 茅ヶ崎一里塚 (元町5890)

昭和36年8月15日 史跡指定

江戸日本橋より14里目に当たる一里塚。昔は街道沿いの1里ごとに築かれていたが、道路の拡張、改修でほとんどが壊され、ここに残る塚は貴重なものである。

No.18 鶴嶺八幡宮参道および松並木 (浜之郷732外)

昭和44年8月15日 史跡と天然記念物の重複指定

「八幡大菩薩佐塚大明神両社之記録」という古記録に、常光院の朝恵上人が慶安の頃(1648~52年)松を植えたとある。もとより当時の松はないが、松並木と参道は、 平安時代の創建と伝えられる鶴嶺八幡社におもむきを与えている。

№19 輪光寺の庚申塔(寛永17年:1640年)(円蔵2238 輪光寺境内)

昭和44年8月15日 重要文化財指定

市内の庚申塔の年号銘のあるものの中で、寛永17年という最古の年号を持っている。三猿

を彫る庚申塔では全国的にみても古いものである。

No.20 民俗資料館(旧三橋家)(堤4318)

昭和46年3月26日 重要文化財指定

江戸時代末期の文政10年(1827年)に完成したという記録をもち、当時の建築様式をよく残した民家である。昭和47年に市内の香川から浄見寺の境内に移築し、翌年から一般公開している。

№21 上正寺の木造聖徳太子立像 (小和田2-12-73 上正寺蔵)

昭和49年1月23日 重要文化財指定

聖徳太子が2歳の時に、東を向いて「南無仏」と唱えると、手の中から舎利(釈迦の遺骨) がこぼれたという話をモデルにしたもので、室町時代後期から江戸時代初期頃の作と考えられ ている。

№22~№27 旧寛永寺石燈籠(小和田2-12-73 上正寺境内、小和田公民館、市役所前庭)

昭和49年1月23日 重要文化財指定

徳川家の菩提寺だった東京都上野の寛永寺には、諸大名から歴代将軍の供養として石燈籠が献上された。それらは寛永寺整備寄付の返礼として各地に贈られているが、その一環としてもたらされたものである。平成22年3月、大八木ふみ氏宅の1基が市に寄贈され移築された。

No.28 圓藏祭囃子(円蔵:圓藏祭囃子保存会)

昭和50年3月24日 重要文化財指定

祭囃子は以前は多くの地域で盛んだったが、戦中戦後にそのほとんどが中止した。円蔵では早くから保存会をつくり、その技能を現在までに伝承しており、後継者の育成にも努めている。創始、沿革は不明だが、明治以前から行われていたといわれている。

No.29 柳島エンコロ節 (柳島:柳島エンコロ節保存会)

昭和51年1月22日 重要文化財指定

エンコロ節は、主として西日本の太平洋沿岸に「ヨイコノ節」と呼ばれて分布する芸能と同系統の祝唄である。その多くは港々に唄い継がれているが、県内では他に例をみない貴重な民謡である。土地の景観の全く変化した現在、昔柳島に港があったことを物語る大切な資料である。

№.30 南湖麦打唄(南湖:南湖麦打唄保存会)

昭和54年3月31日 重要文化財指定

麦打ちは、クルリを用いて麦を脱穀する作業である。作業の調子を整え、重労働をまぎらわせるために唄われたのが麦打唄である。江戸時代から昭和の中頃まで麦の収穫期には、広く各地で唄われてきたが次第に姿を消し、現在市内では南湖にのみ伝えられている。

№.31 芹沢焼米搗唄 (芹沢:芹沢焼米搗唄保存会)

昭和54年3月31日 重要文化財指定

焼米とは、籾をふかして炒って臼でついてつくる。豊作を祈って神棚や仏壇に供えた。 焼米搗唄は、臼でつく時に唄った作業唄である。立臼に千本杵でつくが、この時杵が臼の 縁に当たって独特の音色がでる。以前は各地で行われていたと思われるが、今は市内では 芹沢だけに残されている。

№.32 民俗資料館(旧和田家)(堤3882外)

昭和57年7月20日 重要文化財指定

改造が少なく、江戸時代末期の大型民家の姿をよく留めている古民家。旧所蔵者の和田家に伝わる古文書から、同家11代目当主清右衛門によって建築されたことが分かっている。「安政二年三月」(1855年)と墨書きされた棟札も残されている。昭和57年4月に市に寄贈され、市内の萩園から移築復元して、昭和60年4月から一般公開している。

№.33 腰掛神社の樹叢 (芹沢2170外)

昭和61年2月21日 天然記念物指定

腰掛神社はうっそうとした樹林に囲まれており、その境内には植栽されたイチョウ、シイ、スギなどの大木もある。都市化の進んだ市内ではこのような樹叢は貴重なものである。

№34 龍前院の五輪塔十基 (浜之郷356 龍前院墓地)

昭和62年4月17日 重要文化財指定

鎌倉時代後期から南北朝時代初期(14世紀前半)にかけて順次造られたものと考えられるが、造られた由来は分かっていない。積みかえられた部分があるが、大きさは市内最大で、このような大型の五輪塔が10基もまとまってある例は県内でも珍しい。

No.35 龍前院の庚申塔(明暦3年:1657年)(浜之郷356 龍前院境内)

昭和62年4月17日 重要文化財指定

三猿像を彫った庚申塔ではごく初期のもので、市内にある同様の形態の猿を彫り出した 8基(明暦~寛文期)の中で最も古い。

№36 龍前院の梵鐘 (浜之郷356 龍前院境内)

昭和62年4月17日 重要文化財指定

江戸時代に浜之郷村の領主であった山岡氏の5代目が、早死にした弟の供養のために造らせたもので、元禄7年(1694年)の銘がある。第二次世界大戦中の供出も免れて、現在市内最古の梵鐘である。

No.37 上国寺の木造日蓮坐像(永正11年:1514年) (今宿488 上国寺蔵)

平成8年11月1日 重要文化財指定

全国の日蓮像のうちでも古い方に属し、市内の仏像彫刻のなかでは貴重な像である。像高32.0cm、袖張42.5cm、膝張り26.0cm、寄木造り、玉眼嵌入、頭部・体部共に前後矧ぎ、肩膝前は別木。像内の胎内頭部後面に、向かって右から「三月日/永正十一年/作之」と墨書銘がある。

No.38 常顕寺の木造日蓮坐像(大永7年:1527年)(萩園1441 常顕寺蔵)

平成8年11月1日 重要文化財指定

全国の日蓮像のうちでも古い方に属し、市内の仏像彫刻のなかでは貴重な像である。像高29.3cm、袖張37.1cm。彩色であったが、ほとんど剥落している。寄木造り・玉眼嵌入。像の敷く上げ畳台座の天板裏に、向かって右から「敬白 願主/大永七年丁宛 (亥)四月十八日/小田原 徳乗房/日盛(花押)」と墨書銘がある。

No.39 信隆寺の木造日蓮坐像(永禄7年:1564年)(今宿841 信隆寺蔵)

平成8年11月1日 重要文化財指定

全国の日蓮像のうちでも古い方に属し、市内の仏像彫刻のなかでは貴重な像である。像 高42.0 cm、袖張65.6 cm、膝張35.5 cm、寄木造り、玉眼嵌入、彩色(後補)。 頭体は1材を頸部で割りはなち、耳後ろで前後に矧ぐ。体部は6材を割り矧ぐ。胎内背面に、向かって右から「八月十三日/法主日□坊/南無妙法蓮華経/願主仏国寺善行坊/日受/敬白/干時永禄七年甲子」と墨書銘がある。

No.40 本社宮の庚申塔(明暦2年:1656年)(矢畑142 本社宮境内)

平成8年11月1日 重要文化財指定

笠付きの比較的珍しい形状の庚申塔。市内の有銘庚申塔では古い方から4番目に当たり、三猿を持つ庚申塔の、全国例の中で初期に位置付けることができる。

No.41 藤間家 (近世商家) 屋敷跡 (柳島 2-6-3 0)

平成25年3月15日 史跡指定

藤間家は代々柳島村の名主を務める中で、廻船業を営む商家として近世では江戸をはじめとした広範な商いを行った。当家では近世の石垣をはじめ、新たに発見された土蔵跡などの遺構が敷地内にそのまま包蔵されていることが確認されており、近世商家の状況を示す貴重な遺跡である。

№42 堤貝塚出土の深鉢形土器(中海岸2-2-18 文化資料館内)

平成25年3月15日 重要文化財指定

神奈川県指定史跡の堤貝塚より出土したもので、縄文時代後期(堀之内 I 式)の深鉢土器で堤貝塚を代表する土器であるとともに、本市において古くから知られている親しみのある資料である。

No.43 堤貝塚(東貝塚)(堤字十二天1467-1)

平成27年6月1日 史跡指定

堤貝塚のうち東貝塚においても、既に県指定されている西貝塚と同様、貝層や竪穴住居 址が確認されているほか、土器や釣針、貝輪などが出土している。縄文時代後期における 集落や活動の様相を示す遺跡で、相模湾岸において残されている縄文時代後期の数少ない 貝塚の一つとして評価される。

No.44 本村居村遺跡出土木簡 (十間坂 3-6-17 梅田文化財調査室・収蔵庫内)

平成27年6月1日 重要文化財指定

木簡の形態は短冊形のほか桶底や折敷を二次利用したものなど複数あり、文書木簡や習書木簡などの性格を有する。何らかの行事に際して作成された帳簿木簡など、作成時代や地域の実態を知ることができ、本市の歴史を知るうえで欠くことのできない資料である。

No.45 東川斎桂山筆 源為朝図 (茅ヶ崎市萩園1719)

令和3年2月18日 重要文化財指定

萩園に所在する三島大神が保管する絵馬で、墨書により、制作者、奉納者、奉納年月が明らかであり、当地域における江戸時代末期の生活文化をうかがい知ることができる資料である。制作者である東川斎桂山は、江戸時代末期に相模国各地で活動し、当市を含む各地に多数の作品を残していることから、本絵馬は、当時の相模地域における民間の芸術文化の受容や絵師の活動を知ることができる貴重な絵画である。

(4) 国登録有形文化財

1 茅ヶ崎館浴室棟、長屋棟、中二階棟、広間棟(平成21年1月8日登録)

茅ヶ崎館は、湘南海岸を望む高台に建つ明治32年創業の老舗旅館で、映画監督・小津安二郎が定宿としていたことでも知られる。広間棟(大正15頃築)の広間は30畳大で軽快な意匠の座敷飾りを備え、南西側に中二階棟(同12頃築)、南東に長屋棟(同15頃築、昭和8年移築)を配して中庭を囲む。広間棟後方の浴室棟(大正15年頃)は数寄屋風意匠でまとめている(県文化財HPより)。

2 藤間家住宅主屋(平成27年3月26日登録)

昭和7年の建築で、建物は敷地の中央に東面する。洋間を玄関南脇のみに配するが、北脇の和室を含む東立面全体を下見板張の洋風意匠で統一されている。その他は、簓子(ささらこ)下見板張りとして和洋の意匠を対比的に採用している。平面は中廊下の前後に居室を並べている。設計者西村伊作の作風の一端を示す近代住宅。

なお、藤間家は江戸中期から名主を務めた豪農で、廻船業も手がけた。建築年代は棟札による。設計は西村建築株式会社、棟梁は石井兼吉。建設時の図面や書類が残る。

平成29年7月に、敷地と共に市に寄贈され、現在は民俗資料館旧藤間家住宅として開館し、 外観が公開されている。

3 旧南湖院第一病舎(平成30年3月27日登録)

明治32年の建築で、敷地北寄りに建つ木造二階建ての建物。矩形平面で北面に切妻屋根の玄 関部、西面に階段室を張出して立面に変化を付けている。外壁は下見板張で上下窓を並べ、二階 窓にペディメントを飾り、開口が多く採光通風に配慮している。療養地として著名な湘南で希少 な明治期の結核病棟として評価を受けた。

なお、南湖院は明治32年に医師高田畊安が開設し、大正期には第11病舎までが建築され、 東洋一の結核療養施設と謳われた。

4 旧氷室家住宅主屋(平成30年11月2日登録)

昭和10年に建築された、敷地北寄りに建つ木造二階建ての建物。西側は板敷の洋室を中心とした開放的な造りとし、東側は床の間を配した和室や緩やかな勾配の軒などの和風意匠としている。洋室と和室の間には段差を利用した通気口が設けられており、通風に配慮した工夫が見られる。

三井不動産の元副社長氷室捷爾(ひむろしょうじ)・花子夫妻の庭園と共に市に寄贈され、 茅ヶ崎市氷室椿庭園の一部として外観が公開されている。

3 保存管理

(1) 市指定文化財保存管理

市指定文化財の所有者と保管や活用の状況について確認をとり、継続して適切な管理をすることに努めた。

管 理 者	区 分	名 称
宗教法人 净見寺 菱科 俊雄	市指定史跡	浄見寺の大岡家一族墓所
藤間 克子	IJ	藤間家(近世商家)屋敷跡
宗教法人 輪光寺 関 光典	市指定重要文化財	輪光寺の庚申塔
宗教法人 上正寺 佐々木 泰弘	IJ	上正寺の木造聖徳太子立像
宗教法人 上正寺 佐々木 泰弘	IJ	旧寛永寺石燈籠
圓藏祭囃子保存会 亀井 利光	IJ	圓藏祭囃子
柳島エンコロ節保存会 小川 勇次	IJ	柳島エンコロ節
南湖麦打唄保存会 加藤 譲	IJ	南湖麦打唄
芹沢焼米搗唄保存会 山口 敏子	IJ	芹沢焼米搗唄
宗教法人 腰掛神社 石腰 浩之	市指定天然記念物	腰掛神社の樹叢
宗教法人 龍前院 赤間 浩正	市指定重要文化財	龍前院の五輪塔十基
宗教法人 龍前院 赤間 浩正	IJ	龍前院の庚申塔(明暦3年:1657年)
宗教法人 龍前院 赤間 浩正	IJ	龍前院の梵鐘
宗教法人 上国寺 望月 文敬	IJ	上国寺の木造日蓮坐像(永正11年:1514年)
宗教法人 常顕寺 森田 海玄	IJ.	常顕寺の木造日蓮坐像(大永7年:1527年)
宗教法人 信隆寺 木村 邦佑	IJ	信隆寺の木造日蓮坐像(永禄7年:1564年)
宗教法人 本社宮 川邊 久男	IJ.	本社宮の庚申塔(明暦2年:1656年)
宗教法人 三島大神 長崎栄一	IJ	東川斎桂山 源為朝図

(2) 文化財パトロール

国・県・市指定文化財を中心に巡回パトロールを34回行った。

II /I 'I	.11/62/10/13	1 - 1 - 1			H13 - 750	
令和2年	4月15日	(水)	4月16日	(木)	4月23日 (木)	5月29日(金)
	6月 3日	(水)	6月 5日	(金)	6月17日 (水)	6月18日 (木)
	6月23日	(火)	6月24日	(水)	6月30日(火)	7月 2日 (木)
	7月 3日	(金)	8月19日	(水)	8月28日(金)	9月11日(金)
	9月17日	(木)	10月 6日	(火)	10月12日(月)	10月26日 (月)
	11月 6日	(金)	11月 9日	(月)	11月30日(月)	12月 9日(水)
	12月16日	(水)				
令和3年	1月22日	(金)	1月25日	(金)	2月10日 (水)	2月19日(金)
	2月24日	(水)	3月 2日	(火)	3月 5日(金)	3月26日(金)

(3) 説明板設置

「5. ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業」で1基(35ページの(5)参照)の説明板を設置した。

(4) 郷土芸能伝承事業

市内の郷土芸能を広く市民に紹介し、同時に後継者を育成することを目的として実施している。 対象者 神奈川県立茅ケ崎高等学校文楽部 乙女文楽の伝承事業

(5) 文化財保存用地管理

市指定文化財保存用地などの除草清掃、植木の剪定などを行った。

- ・旧相模川橋脚用地(駐車場含む)
- ・ 茅ヶ崎一里塚用地
- ・茅ヶ崎市民俗資料館(旧三橋家、旧和田家)用地
- ・湘南道路の碑の設置用地
- 堤貝塚保存用地
- ・浜之郷のヘビ塚保存用地
- ・円蔵モニュメント用地
- ・芹沢の大久保遺跡用地
- ・鶴嶺参道歴史ひろば

(6) 文化財保護に関する啓発

文化財防火デー(1月26日)に伴い、令和3年1月26日(火)に民俗資料館(旧和田家住宅)に おいて予防課と共催で消防訓練を実施した。

実施内容は、①火災発生時に取るべき対応を考える(ワークショップ方式)、②消防設備の説明、③消火器の使い方説明、④119番通報訓練、⑤消火栓・放水銃の取扱説明、⑥予防課による講話で、参加者は公益財団法人茅ヶ崎市シルバー人材センター職員を含め、計7人だった。

4 普及事業

(1) 第48回茅ヶ崎市郷土芸能大会

市内の郷土芸能(民俗芸能)の伝承と公開を目的とした事業を行っているが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業を中止した。

(2) 文化財講演会

茅ヶ崎市内には、茅ヶ崎の歴史や人々の暮らしを知る上で重要な文化財が多く所在している。こうした 文化財等については普及啓発を行い、文化財への理解を深める機会とすることで、広く市民への周知を図 り、地域の文化財を保護し、次世代に引き継ぐ意識の浸透と啓発を図る必要がある。令和2年度は文化財 講演会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業を中止した。

5 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業は、市内全体を屋根も壁もない博物館と見立て、地域の文化・歴史・自然・観光などを都市資源として活用し、まち全体を活性化させ、まちを愛する人々を増やすことを推進している。

(1) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト活動状況

市民と行政による事業推進体制を立ち上げ、「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の指針」に謳われた幅広い取り組みを推進していけるよう、事業の企画運営を行った。

市民との協働による会議開催回数 1回

(2) 企画展「お届けエコミュージアム!おうちで"丸ごと博物館"」

市民ボランティアが中心となって企画・運営し(※)、期間を限定して多様な主体が茅ヶ崎の魅力を一体的に発信するキャンペーン事業。平成24年度からスタートし9回目を迎えた。

テーマは「お届けエコミュージアム!おうちで"丸ごと博物館"」。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン形式で開催し、対面型講座やまち歩きが実施できない状況下においても、多様な視点から茅ヶ崎にまつわる都市資源について学ぶ機会を設けた。

※企画運営について

市民と行政による協働事業推進体制「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト」を中心とした市民ボランティアが主体となり、企画・運営を進めた。

期 間:令和3年3月1日(月)~令和3年3月31日(水)

会場:オンライン開催(MaruhakuTV サイト内)

企画展実施内容

「茅ヶ崎を知る」

これまでに庁内関係課が作成した「茅ヶ崎の都市資源を知ることができる動画」を集約して紹介し、様々な切り口で茅ヶ崎のことを知る機会を提供した。

紹介動画件数:42件

「茅ヶ崎を歩く」

これまでに庁内関係課が作成した「茅ヶ崎のまち歩きマップ」を集約して紹介した。

紹介マップ数:18件

「茅ヶ崎を再発見する」「みんなの、まちの宝もの」

市民参加型事業として、市民の皆さんが見つけた「茅ヶ崎の宝物」 "都市資源" の写真を募集し、「みんなの、まちの宝もの」として、オンライン写真展覧会を実施した。

市民からの寄せられた写真件数:69件

「ちがさき丸ごと写真展」

ちがさき丸ごと博物館で長年活動されていた市民ボランティアの方が撮影した写真の一部を展示し、 オンライン展覧会を実施した。

展示写真件数:33件

(3) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座(基礎編)

茅ヶ崎市民を対象に、「これから茅ヶ崎について1から学びたい」というレベルの茅ヶ崎を知るための 基礎講座を2期(5月期、10月期)計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催 を中止した。

(4) まち歩き企画

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト・ガイド部会による研修が、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となったため、同部会による自主企画「丸ごと博物館まち歩き」も中止とした。

※令和元年度に企画・実施した同事業のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止されていた「丸ごと博物館まち歩き~茅ヶ崎の東海道を歩く(東編)」については、年度をまたいでの代替事業として「まち歩き動画」の作成に取り組んだ。

主に郵送等による情報交換を重ね、解説文の作成に取り組んだ。

最終的に、動画の完成には至らなかったが、全ての参加者が動画用の解説文を完成させたことを受け、 令和元年度ガイド部会研修修了証を発行した。

当初予定していた「まち歩き動画」については、参加者の希望を受け、令和3年度中の完成を目指し、

引き続き取り組んでいく予定である。

参加者: 令和元年度ガイド部会研修参加者7名

協力者:令和元年度ガイド部会会員2名

(5) サイン設置事業

現在茅ヶ崎市の公共サイン計画が検討されており、文化財等の説明板を中心に設置を進めている。市内に点在している都市資源を関連づけ、児童・生徒、市民や市を訪れる人に紹介するため、都市資源を説明する説明板や案内柱を設置し、管理している。

令和2年度説明板設置個所

·三島大神(「東川斎桂山 源為朝図」)

(6) 広報活動

ホームページ

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクトの活動や都市資源を随時紹介している。

(7) ウェブサイト MaruhakuTV

平成28・29年度行政提案型協働推進事業「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座の動画配信及び事業PR」で構築したウェブサイト「MaruhakuTV」 (https://www.maruhaku.tv) を、平成30年度からウェブサイトの運用業務委託を実施。委託団体はNPO法人湘南スタイル。

セッション数(通算訪問回数):10,960回(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

(8) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会の活動

- ①定例会の開催 7回
- ②運営部会の開催 15回
- ③行政からの依頼事業 1件(新型コロナウイルスの影響のため中止)
- ④一般団体からの依頼・共同事業 17件(新型コロナウイルスの影響のため3件が中止)
- ⑤自主学習会事業 6回
- ⑥ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会自主事業 3回 (新型コロナウイルスの影響のため全て中止)
- (7) 会報発行 12回

(9) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会の活動

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座(基礎編)の修了生による同窓会的組織が平成28年9月28日(水)に設立された。

当事業が開催するイベントのボランティアスタッフや自主学習会等の活動を行い、ちがさき丸ごと博物館事業を盛り上げている。

- ・役員回の開催 9回
- ・ボランティア部会の開催 1回
- ・オンラインを活用した自主学習(「知識の宝箱」(電子版会報)発行) 28回
- ・自主散策 0回(新型コロナウイルスの影響により自粛)

(10) ちがさき丸ごとふるさと発見博物館のシンボルマークの活用

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業のより広い普及を図るため、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業を主催する、又は共感し賛同する者に対して、次のシンボルマークの使用を承認している。



作者 酒井ひろみさん (茅ヶ崎市在住)

※シンボルマークは、平成17年(2005年)に、「茅ヶ崎らしい人とのつながり 楽しい雰囲気 遠くからでもわかる」の4つの事柄をテーマに募集、検討委員会で選考し決定。

6 史跡・遺跡整備事業

(1) 国指定史跡·天然記念物 旧相模川橋脚保存活用事業

下町屋に所在する「旧相模川橋脚」は、関東大震災で出現したという全国的にも貴重な遺跡である。橋脚の一部に傷みが見られたことから、国・県の協力を得ながら平成13年度より平成19年度まで保存整備を実施し、その後公開活用され多くの来跡者を得ている。また、本遺跡は史跡に加え、関東大震災の地震痕跡を有するという内容で天然記念物としての評価も得て、平成25年3月27日付けで国の天然記念物の指定を受けている。

①維持管理

史跡地および周辺地区の保存管理のための点検と清掃を行った。

②公開普及等

『遺跡学研究』17号参考資料及び令和2年度かながわの遺跡展 展示パネル・図録等の掲載のため、資料を提供した。

(2) 国指定史跡 下寺尾官衙遺跡群・下寺尾西方遺跡保存活用事業

茅ヶ崎市北西部に位置する下寺尾地域には、七堂伽藍跡や西方遺跡が所在しており、昭和32年には地 元関係者の手により七堂伽藍跡の記念碑が建立されるなど古くから関心の高い場所であった。市教委では、 平成12年度から七堂伽藍跡の確認調査を重ね、伽藍域や主要建物を明らかにしてきた。また、県立茅ケ崎北陵高校建替工事に伴う調査では西方遺跡内で古代官衙遺跡が発見され、高座郡家と比定された。

市ではこれらの遺跡を下寺尾遺跡群として重要遺跡に位置付け、保存整備に向けた手続きを進めた結果、「官衙遺跡の全体像が把握できるとともに、その成立から廃絶に至るまでの過程が確認できる稀有な遺跡で、地方官衙の構造や立地を知る上で重要である」として、平成27年3月10日付けで国の史跡の指定を受けた。

また、下寺尾官衙遺跡群の高座郡家域と重なる位置に弥生時代の環濠集落が確認されており、調査及び 国県との協議・手続きを進めた結果、弥生時代中期後半の「南関東における中心的な集落の一つとして位 置付けられ、弥生時代中期社会の様相を知るうえで重要な遺跡」として、平成31年2月26日付けで国 の史跡の指定を受けた。

令和2年度の主な事業内容は以下の通りである。また、以下の事業の他、県との協議、庁内各課との調整、開発に伴う調整、保存整備に向けた基礎調査を進めた。

ア 下寺尾遺跡群保存・活用部会

史跡下寺尾官衙遺跡群をはじめとする下寺尾遺跡群の保存活用を進めるにあたって、文化庁ならびに神奈川県教育委員会の指導のもと平成27年度に文化財保護審議会の下部組織として下寺尾遺跡群等保存・活用部会を設置した。部会の構成と開催内容は以下の通りである。

下寺尾遺跡群保存·活用部会委員

 近藤 英夫 (東海大学)
 考古学

 五味 文彦 (東京大学)
 歴史学

岡本 孝之(神奈川県考古学会) 考古学

田尾 誠敏 (東海大学) 史跡整備・考古学

荒井 秀規(藤沢市教育委員会) 古代史

宮瀧 交二 (大東文化大学) 博物館学・古代史

寺前 直人(駒澤大学) 考古学 箱崎 和久(奈良文化財研究所) 建築史 佐藤 次男(下寺尾自治会) 市民

オブザーバー

文化庁文化財第二課

神奈川県教育委員会文化遺産課

開催内容

第1回部会

日時 令和2年7月17日(金)13:30~17:00

場所 茅ヶ崎市役所分庁舎5階 F会議室

議題1 令和2年度史跡保存・整備事業について

- 2 史跡下寺尾西方遺跡の追加指定に係る意見具申について
- 3 令和元年度史跡確認調査および令和2年度史跡確認調査計画について
- 4 史跡指定地内における現状変更の計画について

第2回部会

日時 令和3年3月15日(月)14:00~17:00

場所 史跡調査地点 茅ヶ崎市下寺尾

議題1 令和2年度史跡確認調査の現地視察について

イ 史跡確認調査事業

遺跡の保存状況や配置を確認するため、神奈川県教育委員会の協力を得ながら、発掘調査を実施している。成果は調査研究に活用するだけでなく将来の史跡整備に向けた資料としても活用する。

- · 西方遺跡第12次確認調査
 - 1 調査期間 令和3 (2021) 年2月6日(土) ~3月29日(月) (事前測量~現状復旧完了の期間) 表土掘削開始日 令和3 (2021) 年2月8日(月)
 - 双上海的两对目 17年3(2021)年2月6日
 - 2 調査地点 茅ヶ崎市下寺尾441番1ほか
 - 3 調査主体 茅ヶ崎市教育委員会 調査協力 神奈川県教育委員会
 - 4 調査担当 加藤大二郎 (茅ヶ崎市教育委員会社会教育課)
 - 5 調査目的 史跡保存整備のため確認調査
 - ①高座郡家東側推定区画遺構の詳細確認
 - ②高座郡家東側における官衙関連遺構の状況確認
 - ③可能な範囲での弥生時代中期環濠集落関連遺構の状況確認
 - ④本遺跡群が位置する原地形の把握。
 - ⑤重層している他時代(縄文時代、中世、近世、近現代)の遺跡状況の確認。
 - 6 調査面積 約100.9 m²
 - $(A \boxtimes = 20 \text{ m}^2, B \boxtimes 10.8 \text{ m}^2, C \boxtimes 47.6 \text{ m}^2, D \boxtimes 22.5 \text{ m}^2)$
 - 7 発見された遺構

(宝永火山灰降灰以降) 硬化面、動物墓(犬か)、土坑、ピット

(平安以降~中世) 土坑、ピット、溝状遺構 (奈良・平安) 溝状遺構、硬化面、ピット

(古 墳) 竪穴建物址、竪穴状遺構

(弥 生) 竪穴状遺構

(縄 文) なし

8 出土した遺物

(宝永火山灰降灰以降) 磁器

(平安~中世) 龍泉窯系青磁

(奈良・平安) 土師器、須恵器、瓦、礫

(古 墳) 土師器、須恵器

(弥 生) なし

(縄 文) 縄文土器、石器

9 調査の方法と経過

当該地北東隣接部分の交差点における歩道整備に伴う発掘調査によって南北方向の溝状遺構がわずかな範囲であったが発見された。この遺構が主軸方向 N-6°-W であり、県立茅ケ崎北陵高校グラウンドで発見された正倉群と軸方向が近似することから、郡家東側の区画遺構としてこれまで推定されてきた。

調査計画では、区画遺構と考えられているこの溝状遺構を把握することを主目的としているため、調査区を溝状遺構想定延長部に適宜設定し、確認状況に応じて拡張、あるいは延長上に別調査区を設定することとしていた。最終的に調査区を4か所に分けたため、調査開始順にA区、B区、C区、D区と呼称することとした。

周辺の調査において、撹乱等が存在していることが想定されたことや時間短縮の関係から可能なところまでを重機で掘り下げを行う計画であったが、地表から約 20~60 cm存在する表土を除去したところ、遺構の確認が可能なことが判明したことから、A 区の北半分と C 区の拡張前

部分のみ重機を使用し、それ以外は人力掘削で土層の把握と遺構・遺物の確認を行った。 調査は中世までの遺構は完掘し、記録保存とし、古代以前の遺構については平面精査による遺 構確認を目的とし、原則として遺構調査は行わず現状保存とした。なお、溝状遺構については、 状況把握のため必要部分の調査を行い、詳細把握に努めた。

10 十. 層

調査地区の土層堆積状況は、概ね以下のとおりである。当該地は耕作を行うために近現代に盛土による整地を行ったと思われ、その堆積が第 $1\sim2$ 層である。第 3、4 層は A 区にのみ見られる近世より古く、硬化面より新しい段階の堆積土である。調査の目的であった古代官衙関連遺構は第 5 層を掘り込んでおり、確認可能だが、B、C、D 区では確認できるが、A 区は削平を受けており、硬化面の土層のみが対応すると考えられる。第 6、7 層はいわゆる FB 層であり、第 8 層は関東ローム層である。

- 第1層:暗褐色土(10YR3/3) 表土。灰白色パミス(3~5mm)を多く含み、しまり弱い。現代耕作土?トラクターによる表土。部分的に重機で踏みならしたので固い。
- 第2層:灰黄褐色土(10YR4/2) パミス全体に含む。しまり強い。転圧を受けた整地層か。粘性あり。ビニールゴミを含む。近現代の畑をやるための盛土としての整地層。
- 第3層: 褐灰色土(10YR4/1) パミス少量。橙色粒少量。粘性、しまりあり。堆積やや密。礫 (3~5cm 大)を少量含む。第4層より褐色味を強く帯びる。
- 第4層: 褐灰色土(10YR4/1) 色調は第3層より暗い。礫(3~10mm)を全体に含む。橙色粒多い (霜降り状)。しまりやや弱い。粘性あり。堆積やや密。
- 第5層:黒褐色土(10YR2/2) 橙色粒霜降り状に多い。軽石(小)含む。粘性あり。しまり強い。堆積密。
- 第6層:灰黄褐色土(10YR4/2) 橙色粒霜降り状に多い。褐灰色土(10YR4/2)が斑に10%。粘性 しまりあり。堆積やや密。色調は第4層よりやや明るい。FB層の上部をしまりで分 けたもの。
- 第7層: 灰黄褐色土(10YR4/2) 第6層より色調暗くなる。橙色粒は多いが第6層より減じる。 いわゆる FB 層と思われる。
- 第8層:明褐色ローム(7.5YR5/8) 極めてしまり強い。粘性強い。スコリア多量に含む。

11 調査結果の概要

ここでは今回確認することのできた近世から縄文時代における主要遺構・遺物について、 その概要を述べることとする。

A 区主要遺構・遺物

1号竪穴状遺構

調査区の北西部を除き全体に検出された。第3~4層から成る。礫を多く含み、しまりが弱い。

近世後半以降のピットに掘り込まれているが、出土する遺物で最も新しいものは古代の土師器である。硬化面を掘り込んでおり、硬化面は官衙関連遺構の可能性が高いことから、官衙期〜近世前半の遺構と考えられる。

硬化面

1 号竪穴状遺構に壊されており、ブロック状に確認することができた。3 cm厚程の残存であるが、もともと1号竪穴状遺構と概ね重なる範囲により厚く存在していた可能性がある。 縄文時代の遺物

第 6、7 層からは縄文時代中期、前期の土器、黒曜石が出土している。遺構の平面形は明確でない。

B 区主要遺構・遺物

1号溝状遺構

幕末頃の磁器を含む。下部からより古い 1a 号溝状遺構を確認している。2 号溝と概ね直交する。近世後半以降に埋没したと考えられる。

1a 号溝状遺構

1 号溝状遺構と覆土が近似していたことから、同じ遺構として掘削したが、下部から磁器が出土しないこと、2 号溝の止まる部分で直交しており、D 区の 2 号溝の止まる部分に直交する近似した遺構(4 号溝状遺構)が存在する。4 号溝状遺構と同時期の遺構の場合、1 号竪穴状遺構より古く、硬化面より新しいが、B 区内の重複関係では、1 号溝状遺構より古く、2 号溝状遺構、1 号竪穴建物址、ピットより新しい。

なお、2 号溝中心部の止まる部分に 2 号溝に伴う可能性があるピット状の遺構が存在したが、 断面観察の結果、これは 1a 号溝状遺構に伴うものであると判断した。

2 号溝状遺構

これまで郡家東側区画遺構と推定されてきた主目的の溝状遺構である。調査区南端で溝が止まっている。溝が止まる部分は近世の 1 号溝状遺構、中世~古代の 1a 号溝状遺構に壊されている。

断面形状はU字状で、上部がラッパ状に開く。

溝の東西幅はラッパ状に開く最上部が約3.03mで、U字状の上面は約2.07mである。

覆土は外側が黒褐色土主体で、中心部が褐色土主体である。礫を多く含む。

1 号竪穴建物址

2 号溝状遺構と重なる。検出できた範囲は竪穴の南東端部分である。過去の調査区で確認されている古墳時代後期の建物址の南東部と考えられる。

ピット

2 号溝状遺構の止まる部分の脇に等間隔で東側と西側に存在している。平面は円形で直径約37cm、31cm、検索棒による深度の確認では各ピット確認面から約47cm、42cmである。1号溝状遺構の底面で確認が可能なことから、本来2号溝状遺構の覆土が被っており、プラン確認が容易でない可能性があることから、D区の2号溝状遺構の止まる部分において同様にピットが存在しているかは明確でない。

C 区主要遺構・遺物

6号土坑、8号土坑

宝永火山噴火により降灰した軽石を含むことから、近世後半以降の遺構と考えられる。いずれからも龍泉窯系の青磁が出土しており、接合した。このことから、本遺構が中世からの所産、あるいは中世の遺構を壊したことで混入した可能性がある。

2 号溝状遺構

区画遺構と考えられる。サブトレンチによる遺構掘削の結果、ほぼ同じ軸の溝が2本重なっていることが判明した。西側は古く、黒褐色土を主体としており、断面形が逆台形を呈す。東側は西側より新しく、断面形がV字状であり、逆台形より深く、幅が広い、褐色土主体である。V字状の溝状遺構は礫を多く含む。V字状の溝は西側が途中テラスを持ち、逆台形の西側上部で法面がほぼ重なる。

東西幅は V 字状の上面で約 2.97m、そのうちテラス部分が約 0.96m、逆台形は V 字状の溝に大きく壊されているが、確認できる最大幅で 1.29m、底面幅は 0.6mである。

3 号溝状遺構

十字方向の溝である。東西方向は段状にやや平坦な面を複数もつ。それぞれの段は約 15 cm であり、全体に 2 号溝状遺構と比較して浅い。南北部分が 2 号溝状遺構と重なる。2 号溝状遺構を掘り込むため、2 号溝状遺構より新しいが、遺物は古代以前のもののみである。時期

の詳細については、今後の資料整理と周辺の事例を再検証する必要があるが、官衙期まで遡る可能性を残している。

3 号竪穴状遺構

6、8 号土坑の底面、2 号溝東側でのみ確認できた。基本層序よりも褐色みが強く、スコリアが多いことから、弥生時代以前の遺構覆土の可能性が高い。遺物の出土はなく平面形は不明である。

D 区主要遺構・遺物

2 号溝状遺構

区画遺構であり、4 号溝状遺構が重なる部分周辺で止まると考えられる。礫を含む特徴や覆土から、C 区の 2 号溝状遺構の延長であり、B 区の 2 号溝状遺構と対応するものと考えられる。

4号溝状遺構

B区 1a 号溝状遺構と同様に2号溝の幅より若干広い直交する遺構である。2号溝状遺構と1a 号溝状遺構と4号溝状遺構は直交するものの、平面的な位置は若干ズレがあることから、2号溝状遺構に伴うものではないと考えられる。

1号竪穴状遺構

第4層から成る。礫を多く含み、しまりが弱い。A区の1号竪穴状遺構と同一と考えられる。 2号竪穴状遺構

2 号溝状遺構西側に存在する。調査区内では平面形はとらえられない。古墳時代後期の遺物を複数含むことから、古墳時代後期の竪穴建物址の可能性が高い。

12 小 結

今回の調査は、今後の史跡の保存活用に必要となる資料を蓄積するために行ったもので、 以下、調査目的に沿ってその結果を述べることにする。なお、本報告は調査時における所見で あることをお断りしておきたい。

(1) 区画遺構の状況について

今回の調査地北東隣接地で確認されていた郡家東側区画遺構と推定されてきた溝状遺構を調査地北東部分(B区)で確認した(2号溝状遺構)。また、B区南端で溝状遺構が止まり、約6m50cmの間溝状遺構がなく、再度同様の溝状遺構が南に向かって始まり、敷地外まで延びることを確認することができた。ここでは便宜的に北側の2号溝状遺構を2A溝、南側を2B溝として報告する。

覆土の特徴としては、不揃いの礫が多く含まれること、土色に褐色部分と黒褐色部分に大別できることである。B 区(2a 溝)と C 区(2b 溝)で部分的な遺構掘削を行い、形状を確認したところ、異なる形状を確認した。2a 溝下部は U 字状の形状をしており、北東隣接地の調査では底面中央がさらに小さな U 字状に掘り込まれていることを確認している。上部はラッパ状に開く特徴がある。2b 溝では、逆台形と V 字状の2 本がほぼ平行して同位置に作り替えられており、逆台形の方が古く、やや西側に底面の中心軸があり、V 字状の方が新しく深い。覆土は逆台形が黒褐色土主体で、V 字状が褐色土主体となっている。V 字状の溝は西側が途中テラスを持ち、逆台形の西側上部で法面がほぼ重なる。

時期については、溝状遺構の特性上構築時期や埋没時期を明確にすることは難しいが、多く入り込む礫が意図的に突き固めのために入れたものではないと考えられることから、近場から土と伴に埋める際に入り込んだ可能性が高いと考えられる。2 号溝状遺構の覆土全体に礫が見られることから、相当量の不必要になった礫が当該地周辺に存在していた可能性が高いと考えられる。本遺跡でのこれまでの調査で、弥生時代の環濠集落や古墳後期の住居から礫

が多く出土したことはなく、平安時代末~近世の遺構密度は低い。官衙期の遺構からはしばしば同様の礫が出土することから、2号溝状遺構に含まれる礫は官衙関連遺構に使われていた礫の可能性が高い。2b溝の逆台形側は礫が含まれず、遺物もほとんど出土していないことから、官衙成立後の早い段階で埋まった可能性があり、V字状は礫を利用した官衙関連遺構が礫の利用をやめた段階以降に埋没した可能性がある。出土遺物は最も新しいものが表土直下の遺構確認面で9世紀代の土師器が出土しているが、大部分は8世紀頃の土師器、須恵器が主である。今回の調査で、溝状遺構から10世紀以降の遺物は発見されていない。底面の深度は2a溝の遺構底面よりC区2b溝の底面が約1m深い。

2a溝は既往の調査での主軸方位は N-6°-W とされてきたが、2b溝は N-10°-W である。2a溝の軸については、狭い範囲での確認であること、2b溝は2重に重なっているものを平面精査を中心に確認していることから、軸については今後整理を進め、再検討が必要と考えられる。

2a 溝と 2b 溝の間の約 6m50 cmの間の空間部分に 5m×4mの調査区となった A 区では、2 号溝状遺構より新しい 1 号竪穴状遺構が存在しており、1 号竪穴状遺構の底から硬化面が部分的に検出された。1 号竪穴状遺構は A 区のほぼ全体に存在しており、深さにばらつきがあることから、硬化面は部分的な検出となっている。このことから、硬化面は1 号竪穴状遺構より古いと考えられる。硬化面の直下には縄文時代の堆積土が堆積していることから、硬化面の時期は縄文時代~1 号竪穴状遺構のものと考えられる。そのため、2 号溝状遺構の時期に伴う可能性がある。

この溝と溝の空間の位置は、郡家全体像から位置を見てみると、郡庁の区画遺構と考えられている後殿の東西軸延長上に位置している。

また、周辺における近年の調査では、当該地北東部で古代の版築遺構を複数確認し、東側においても区画遺構の可能性のある溝状遺構を確認しており、2号溝状遺構以東に官衙関連遺跡内容が広がっている可能性が生じているため、2号溝状遺構の性格については今後検討を進める必要がある。

C 区で確認された 3 号溝状遺構は東西、南北十字状の溝状遺構であり、南北部分の覆土は C 区では 2b 溝と重なっており、南北の区画性が引き継がれている遺構と考えられる。時期については、遺物としては 9 世紀代以前のものしか出土しない。3 号溝状遺構に重なるより新しい近世の遺構から、1 点 10 世紀代の土師器が出土している。また、別の重なる近世の遺構からは中世の龍泉窯系の青磁が出土している。

(2) 地形について

同一土層での標高差を今後慎重に検証する必要があるが、南北方向の 2b 溝の底面や法面で観察できるローム層から、縄文時代頃の原地形は当該地北側が高く、南側が低いと考えられる。古代の生活面については、今回の調査地点では、すべての古代遺構確認深度が近現代の土層直下にあることから、後世に削平を受けている可能性があり、明確ではない。

(3) 重層する遺構について

時期が明確なものは、宝永火山灰、軽石を含む近世後半以降の土坑、ピットである。明確 に中世の遺構は確認されていないが、破片であっても市内での出土例が稀な龍泉窯系青磁が 2点出土している。

この他には古墳時代後期の竪穴建物址1軒、竪穴状遺構1基、官衙以前の時期不明竪穴状遺構1基である。

本地点は弥生時代中期宮ノ台式期の環濠集落として史跡指定を受けている『下寺尾西方遺跡』の環濠内側に位置していたが、明確な遺構、遺物は発見されていない。今後の土器洗浄作業によって再確認を実施する。

縄文時代中期勝坂式、前期諸磯式の土器、石器が出土したが、遺構は確認できなかった。

(4) 近現代の土地利用

当該地は昨年まで耕作を行われていた土地であり、表土はトラクターによる耕作土であった。その直下には宝永火山灰、軽石を含む土坑、ピットを覆う 20~60 cm厚の土層が存在しており、その土層はすべて固く転圧を受けている。この転圧土の下の近世以降の土坑からはビニールゴミや犬の骨を含むものがあり、近現代になってから整地されたものと考えられる。今回の調査区はすべてこの整地土を取り除くと礫を多く含んでいることから、耕作のために盛土したものと考えられる。

また、明治8年の公図には2号溝状遺構と近似した軸で、近い位置に道が存在しており、区 画が明治期まで意識されていた可能性がある。

以上、調査目的ごとの成果を確認したところ、主目的であった推定区画遺構である溝状遺構が官衙に関連する区画遺構の可能性が高いことが明らかになった。また、その構造については新たに課題が発生したが、区画遺構の構造の一部を明らかにすることができた。本区画遺構の詳細な時期、機能については今後検討を進めていくが、いずれにせよ郡家全体の構成や景観を考える際に必要となる資料を得ることができた。

ウ 公開普及等

下寺尾遺跡群保存・活用学習会

史跡指定を受けた古代の官衙遺跡や弥生の環濠集落を含む複数の時代に遺跡が重層する下寺尾 遺跡群について、遺跡の概要や保存活用について理解を深めてもらうことを目的に、平成27年 度より市民向けの学習会を開催している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観 点から事業を中止した。

・下寺尾遺跡群保存活用連絡会事業「古代遺跡まつり」

令和元年度において下寺尾遺跡群の保存活用に有意の団体及び個人からなる会員により構成される下寺尾遺跡群保存活用連絡会の事業として、下寺尾遺跡群を会場とした「古代遺跡まつり」を実施したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業を中止した。

• 資料貸出

近江俊秀著『海から読み解く日本古代史』本文挿図として掲載のため資料を提供した。

エ 資料整理・調査

下寺尾官衙遺跡群内の下寺尾廃寺(七堂伽藍跡)については、17回にわたる確認調査を行っており、これらの調査による資料の整理を継続して行っている。令和2年度においては、昨年度に引き続き報告書刊行済みの資料を対象とした再収納作業と、茅ヶ崎市役所旧庁舎から旧小和田消防署に移動した資料の整理を行った。さらに、神奈川県立茅ケ崎北陵高等学校の敷地内及び下寺尾廃寺(七堂伽藍跡)において平成27年度から実施している、史跡確認調査で確認された資料の整理を行っている。また、史跡確認調査事業のうち平成27年度に実施した西方遺跡第1次調査について、調査報告書を刊行した(茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告59『国史跡下寺尾官衙遺跡群I~相模国高座郡家の調査(西方遺跡第1次確認調査~』)。

7 埋蔵文化財

茅ヶ崎市には令和元年度末現在216ヶ所の周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらは旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世、近現代の内容を有しており、本市の地に刻まれた歴史を明らかにしている。教育委員会では文化財保護法に基づいて、これらの保護、調査、普及を行っている。

(1) 保護管理事業

・窓口照会件数 2,325件 (月別内訳)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
155	117	200	200	198	245	195	201	193	185	217	219	2,325

- ・文化財保護法に基づく届出・通知件数
 - ○土木工事に伴う届出(93条) 384件

(内容・取扱別内訳)

	個人 住宅	集合 住宅	店舗	工場	その他 建物	宅地 造成	ガス・ 水道等	道路	その他 工事	計
発 掘	16	4	0	0	1	8	0	0	1	36
立 会	97	9	1	1	9	6	125	3	13	348
慎重工事	41	0	0	0	0	1	21	0	1	64
注 意	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	13	1	0	0	1	2	1	0	4	22
届出取下げ	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
計	171	14	1	1	11	17	147	3	19	384

○土木工事に伴う通知(94条) 28件

(内容・取扱別内訳)

	ガス・ 水道等	その他 工事	計
発 掘	0	0	0
立 会	3	15	19
慎重工事	1	3	4
注 意	1	1	2
その他	0	1	1
届出取下げ	0	1	1
顛末書	0	1	1
計	10	1	28

○発掘調査届(92条) 13件

(内容別内訳)

集合	店舗	その他	宅地	ガス・水道	計
住宅		建物	造成	• 電気等	μΙ
5	1	1	6	0	13

- ○教育委員会による発掘調査(99条) 14件
- ○遺跡発見届(96条・97条) 0件
- ・ 出土遺物の管理

令和2年度の合計91箱令和2年度までの総計6711箱

箱数は令和3年3月31日時点での整理作業成果を反映し、保管箱以外の収容遺物も計上した。

(2) 試掘・確認調査

埋蔵文化財包蔵地および包蔵地近隣で生じる開発事業等については、埋蔵文化財の取扱いを協議する際に必要な資料を得るために、事前に現地における確認を行うこととしている。具体的には、事業計画地において小規模な調査区を設定し、その部分の発掘調査を行い遺跡状況(遺構・遺物の有無、深さ、時代など)の把握を行っている。令和元年度は71件(内7件は記録保存調査を兼ねる)を実施した。調査面積は全体で513.77㎡を測る。調査の結果、71件中55件で遺構や遺物などが確認されている。こうした結果を基に調整を行っている。なお、調査については原則として公費(国・県・市)で行っている。

令和2年度 試掘・確認調査一覧

No.	調査日	所在地	遺跡名 (台帳番号)	工事目的	調査面積	結果 (遺構・遺物 など)
1	4月15日	本村四丁目 1656-12	前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市 No. 200)	個人住宅	4	遺構・遺物 あり
2	4月27日	下町屋二丁目 316- 14、317-1の各一部	石原A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 147)	集合住宅	8	遺構なし、 遺物あり
3	4月28日	本村五丁目 1059-6	居村A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 199)	個人住宅	7	遺構・遺物 あり
4	4月28日	本村五丁目 1059 番 12	居村A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 199)	個人住宅	9	遺構・遺物 あり
5	5月7日	西久保字大屋敷 681 の 一部外 3 筆	大屋敷A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 188)	集合住宅 3棟	13	遺構・遺物 あり
6	5月8日	円蔵字下ヶ町 2405番1 外 7 筆	下ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 184)	宅地造成	8	遺構・遺物 あり
7	5月11日	菱沼二丁目 1434-9、 1434-11、 1434-10、 1434-12	長町A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 76)	個人住宅	11	遺構・遺物あり
8	5月15日	赤羽根字二図 3858 番 の一部外 9 筆	包蔵地外	バイオマス 発電所	12	遺構・遺物なし
9	5月18日	出口町 1-6	出口C遺跡 (茅ヶ崎市 No. 198)	個人住宅	4	遺構なし 遺物あり
10	5月28日	西久保字大町 551-1 外 4 筆	大町B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 149)	宅地造成	8	遺構・遺物 あり
11	6月16日	矢畑字鐘ヶ谷 745 番 6	鐘ヶ谷遺跡 (茅ヶ崎市 No. 215)	個人住宅	9	遺構・遺物 あり

r		r	r		r	y
12	6月23日	小和田一丁目 615 番、 615 番 11	宿遺跡 (茅ヶ崎市 No. 79)	個人住宅	4	遺構・遺物なし
		010 併 11				
13	6月30日	赤羽根字四図 1401-4	四図 A 遺跡 (茅ヶ崎市 No. 61)	個人住宅	4	遺構・遺物 なし
1.4	7 0 15 0	相合儿用公 0111 1	山田谷B遺跡	四十分之	9.75	遺構あり
14	7月15日	堤字山田谷 2111-1	(茅ヶ崎市 No. 117)	個人住宅	3. 75	遺物なし
15	7月21日	香川四丁目 812-2	間門遺跡 (茅ヶ崎市 No. 9)	個人住宅	4	遺構なし 遺物あり
16	7月21日	香川四丁目 812-21	間門遺跡 (茅ヶ崎市 No. 9)	個人住宅	4	遺構なし 遺物あり
17	7月28日	香川四丁目 930 番 3、 931 番 3 の各一部	間門B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 208)	個人住宅	4	遺構・遺物なし
18	7月28日	下寺尾字北方 1572番 1	東方A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 135)	個人住宅	3. 75	遺構なし遺物あり
19	7月30日	松林一丁目 1404 番の 一部	網久保A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 86)	個人住宅	4	遺構・遺物あり
20	8月4日	松林二丁目 487 番 1、 487 番 9、487 番 10 の 一部	網久保A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 86)	宅地造成	8	遺構・遺物なし
21	8月11日	矢畑字明王ヶ谷 169 番 の一部	明王ヶ谷遺跡 (茅ヶ崎市 No. 159)	個人住宅	9	遺構・遺物あり
22	8月20日	香川五丁目1195番 2 外	中通 A 遺跡 (茅ヶ崎市 No. 46)	道路整備	4	遺構・遺物あり
23	8月25日	円蔵字御屋敷 2230	御屋敷A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 156)	個人住宅	6. 25	遺構・遺物あり
24	9月3日	浜之郷756番1、757番 1	石原A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 147)	集合住宅	8	遺構なし遺物あり
25	9月8日	美住町 2342-7、2342- 12	出口C遺跡 (茅ヶ崎市 No. 198)	宅地造成	8	遺構・遺物なし
26	9月10日	円蔵字大屋敷 2116番7	御屋敷B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 157)	宅地造成	8	遺構・遺物あり
27	9月15日	室田一丁目 219-15	東ノ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 195)	個人住宅	4	遺構・遺物あり
28	9月17日	西久保字大町 551 番 3	大町B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 149)	携帯電話基 地局	4	遺構・遺物あり
29	9月18日	西久保 681 の一部	大屋敷A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 188)	集合住宅	12	遺構・遺物あり
30	9月24日	円蔵 2453-9、2457- 11、2455-6、9、10	下ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 184)	個人住宅	9	遺構・遺物あり
31	9月28日	代官町 2870 番 1	代官町A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 83)	個人住宅	4	遺構・遺物なし
32	9月29日	本村三丁目 6809 番 19 ほか4筆	向原遺跡 (茅ヶ崎市 No. 197)	宅地造成	8	遺構なし遺物あり
33	10月1日	円蔵 2401	下ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 184)	個人住宅	4	遺構・遺物あり

34	10月5日	茅ヶ崎市南湖4丁目1	与 辞 44 か	漁港背後地	48	遺構なし
34	~10月6日	2988-1の一部	包蔵地外	整備	48	遺物あり
35	10月15日	香川五丁目 1154 番 10	中通D遺跡 (茅ヶ崎市 No. 168)	集合住宅	8	遺構・遺物あり
36	10月20日	円蔵二丁目 125番2ほ か5筆	鶴ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 186)	宅地造成	8	遺構・遺物あり
37	10月27日	矢畑字金山 90 番 4 ほ か7筆	金山遺跡 (茅ヶ崎市 No. 182)	宅地造成	8	遺構・遺物あり
38	10月29日	本村五丁目 1059-11	居村A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 199)	個人住宅	9	遺構・遺物あり
39	11月5日	浜之郷 436-1	本社A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 154)	保育園	4	遺構・遺物あり
40	11月6日	芹沢字臼久保 4143-1 ・4143-3	行谷遺跡 (茅ヶ崎市 No. 36)	資材置き場	4. 5	遺構あり 遺物なし
41	11月9日	小桜町 1687 番 1 外 10 筆	包蔵地外 (茅ヶ崎市 No.)	有料老人ホーム	18	遺構・遺物なし
42	11月10日	香川二丁目 1724 番 3 (1・2号棟)	香川諏訪神社東遺跡 (茅ヶ崎市 No. 2)	個人住宅	8	遺構・遺物なし
43	11月11日	円蔵二丁目 14番6	鶴ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 186)	個人住宅	9	遺構・遺物あり
44	11月13日	萩園字辻西2335番1の 一部、2335番ロの一 部	辻西遺跡 (茅ヶ崎市 No. 177)	宅地造成	8. 4	遺構・遺物あり
45	11月16日	堤字南谷 2721 番 1 の 一部	堤貝塚(十二天 A 遺 跡) (茅ヶ崎市 No. 8)	個人住宅	11	遺構・遺物あり
46	11月17日	西久保字大町 584番 2	大町B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 149)	個人住宅	1. 7	遺構・遺物 なし
47	11月24日	小和田一丁目 756-4	木ノ下A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 88)	個人住宅	4	遺構なし 遺物あり
48	11月26日	茅ヶ崎字居村 1127番1	居村A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 199)	位置指定道 路の増築	4	遺構・遺物 あり
49	12月1日	茅ヶ崎市芹沢 3339	芹沢広町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 14)	宅地造成	12	遺構・遺物あり
50	12月15日	西久保字上ノ町 1539 番1	上ノ町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 148)	集合住宅	8	遺構・遺物あり
51	12月17日	下寺尾字北方 1153 番 12	北方 A 遺跡 (茅ヶ崎市 No. 137)	資材置場	9.82	遺構・遺物 あり
52	12月12日	小和田一丁目 620 番 5	宿遺跡 (茅ヶ崎市 No. 79)	個人住宅	4	遺構・遺物 なし
53	12月24日	堤字八王子原 400-1、400-2、400- 3、400-4、401-2、 401-3、401-4	八王子原B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 125)	駐車場及び 砂利置き場	10.6	遺構あり遺物なし

(T	Г	T	Г	
54	2月9日	松林二丁目 1545番1の 一部	流し面B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 196)	宅地造成	8	遺構なし 遺物あり
55	2月16日	香川七丁目 2295-6 の 一部	北D遺跡 (茅ヶ崎市 No. 169)	集合住宅	4	遺構・遺物あり
56	2月18日	小和田一丁目 756番2	木ノ下A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 88)	個人住宅	4	遺構・遺物なし
57	2月25日	茅ヶ崎市芹沢 3339	芹沢広町遺跡 (茅ヶ崎市 No. 14)	宅地造成	20	遺構・遺物 あり
58	3月3日	小和田一丁目 776番3	木ノ下A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 88)	個人住宅	4	遺構なし遺物あり
59	3月4日	本村五丁目1059番1ほ か2筆	居村A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 199)	宅地造成	8	遺構・遺物 あり
60	3月9日	本宿町 3235-2 及び 3236-1	包蔵地外	集合住宅	12	遺構・遺物 あり
61	3月11日	堤403番2、6、7	八王子原B遺跡 (茅ヶ崎市 No. 125)	個人住宅	4	遺構・遺物 なし
62	3月16日	本村四丁目 1700 番	前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市 No. 200)	個人住宅	4	遺構・遺物 なし
63	3月16日	本村四丁目 1695 番 7、 1671 番	前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市 No. 200)	集合住宅	4	遺構・遺物 あり
64	3月18日	香川五丁目 1222 番 5	包蔵地外	道路整備	8	遺構・遺物 あり
65	3月23日	浜之郷 273-1	中谷遺跡 (茅ヶ崎市 No. 187)	個人住宅	4	遺構・遺物 なし
66	3月25日	甘沼字向原 867 番 2 の 一部	向原遺跡 (茅ヶ崎市 No. 193)	個人住宅	4	遺構・遺物 なし
67	3月25日	甘沼字向原 867番2の 一部	向原遺跡 (茅ヶ崎市 No. 193)	個人住宅	4	遺構なし 遺物あり
68	3月30日	下寺尾 1870-1	諏訪谷A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 129)	貸資材置場	8	遺構・遺物 なし
69	3月31日	円蔵字御屋敷 2254番1	御屋敷A遺跡 (茅ヶ崎市 No. 156)	宅地造成	4	遺構・遺物 あり
		69 件			513. 77 m ²	

(3) 開発に伴う発掘調査

令和2年度に市内で実施された開発に伴う発掘調査は11地点である。 以下、調査一覧を記す。

No.	遺跡名称	所在地	調査主体者	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)
1	芹沢下場 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.114) 第 1 次調査	芹沢字久保山 2299-1 番 地先~2303-1 番地先	茅ヶ崎市教育委員会	道路	1月14日 ~4月28日	620
2	香川中通 C 遺跡 (茅ヶ崎市No.167) 第 7 次調査	香川五丁目 1392-1、 1393-3	株式会社アーク・フ ィールドワークシス テム	集合住宅	4月7日 ~ 5月26日	240. 6
3	本村前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市No.200) 第7次調査	本村四丁目 1656-12	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	4月21日 ~4月29日	26. 91
4	小和田池袋A遺跡 (茅ヶ崎市No.81) 第2次調査	小和田一丁目1543 -1の一部外4筆	株式会社斉藤建設	店舗	6月 8日 ~ 7月24日	658. 9
5	本村前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市No.200) 第8次調査	本村四丁目 1695-1 ほか	茅ヶ崎市教育委員会	集合住宅	5月11日 ~ 5月25日	15
6	香川原遺跡 (茅ヶ崎市No.53) 第1次調査	香川一丁目 210 番 1 外 2 筆	株式会社四門	宅地造成	5月11日 ~ 6月 1日	101.8
7	赤羽根二図 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.57) 第8次調査	赤羽根字二図 398 番 15	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	5月12日 ~ 5月14日	25. 5
8	本村石神遺跡 (茅ヶ崎市No.203) 第4次調査	元町 6160番 3	株式会社アーク・フ ィールドワークシス テム	その他建物	5月18日 ~ 7月27日	471.6
9	赤羽根二図 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.57) 第 9 次調査	赤羽根字二図 398 番 10 の内	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	5月20日 ~ 5月22日	24
10	赤羽根二図 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.57) 第 10 次調査	赤羽根字二図 398 番 10 の内	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	5月26日 ~ 5月27日	15. 25
11	菱沼長町 A 遺跡 (茅ヶ崎市No.76) 第 1 次調査	菱沼二丁目 1434-10、 12	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	6月 5日	6. 6
12	浜之郷宮ノ腰遺跡 (茅ヶ崎市No.152) 第 17 次調査	浜之郷字宮ノ腰 486-6	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	6月 8日 ~ 7月10日	45

·			r	Y		
13	西久保大屋敷 A 遺跡	西久保字大屋敷 620 番 6 外 4 筆	茅ヶ崎市教育委員会	宅地造成	6月15日 ~ 8月17日	429. 4
14	本村前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市No.200) 第 6-2 次調査	本村四丁目 1638 番 1、 1639 番の一部	株式会社アーク・フ ィールドワークシス テム	集合住宅	6月17日 ~ 7月 2日	42. 4
15	円蔵鶴ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市No.186) 第 11 次調査	円蔵字鶴ヶ町83番1及 び84番1	茅ヶ崎市教育委員会	宅地造成	6月18日 ~ 6月30日	36. 9
16	赤羽根二図 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.57) 第 11 次調査	赤羽根字二図 398 番 14	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	6月25日	9
17	円蔵下ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市No.184) 第 18 次調査	円蔵 2463-1 の内	茅ヶ崎市教育委員会	宅地造成	7月 2日 ~ 8月 8日	46. 9
18	西久保大屋敷 A 遺跡 (茅ヶ崎市No.188) 第8-1 次調査	西久保字大屋敷 681 の 一部外 3 筆	株式会社アーク・フ ィールドワークシス テム	集合住宅	8月 5日 ~10月 2日	292. 9
19	西久保大町 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.149)	西久保字大町 551- 1, 2, 5, 552-1, 4	茅ヶ崎市教育委員会	宅地造成	8月17日 ~ 9月10日	55. 5
20	円蔵下ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市No.184) 第 19 次調査	円蔵字下ヶ町 2405 番 1 外 7 筆	株式会社斉藤建設	宅地造成	8月20日 ~ 9月30日	145. 74
21	西久保大屋敷 A 遺跡 (茅ヶ崎市No.188) 第8-2 次調査	西久保 681 の一部	株式会社アーク・フ ィールドワークシス テム	集合住宅	11月 4日 ~ 1月26日	398. 2
22	下寺尾西方遺跡 (茅ヶ崎市No.1) 第11次確認調査	下寺尾 515	茅ヶ崎市教育委員会	防災無線 更新工事	11月29日	3. 24
23	円蔵御屋敷 B 遺跡 (茅ヶ崎市No.157) 第 13 次調査	円蔵字御屋敷 2116 番 7	株式会社斉藤建設	宅地造成	12月 1日 ~ 1月18日	125. 7
24	円蔵下ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市No.184) 第 20 次調査	円蔵 2487 番 6	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	12月 7日 ~12月11日	13. 5
25	本村前ノ田遺跡 (茅ヶ崎市No.200) 第 9 次調査	本村四丁目 1625-1、2	茅ヶ崎市教育委員会	個人住宅	1月18日 ~ 1月29日	25

30件					4467. 55 m²	
30	円蔵鶴ヶ町遺跡 (茅ヶ崎市No.186) 第 12 次調査	円蔵二丁目125番2 ほか5筆	株式会社斉藤建設	宅地造成	3月 1日 ~継続	236. 11
29	香川中通 D 遺跡 (茅ヶ崎市№168) 第 1 次調査	香川五丁目 1154 番 10	株式会社アーク・フ ィールドワークシス テム	集合住宅	2月22日 ~ 3月24日	180
28	西久保上ノ町遺跡 (茅ヶ崎市No.148) 第 21 次調査	西久保字上ノ町 1539 番 1	株式会社斉藤建設	集合住宅	2月10日 ~ 2月26日	21. 4
27	萩園辻西遺跡 (茅ヶ崎市No.177) 第1次調査	萩園字辻西 2335 番 1 の 一部、2335 番ロの一部	株式会社斉藤建設	宅地造成	1月12日 ~ 1月29日	68
26	矢畑金山遺跡 (茅ヶ崎市No.182) 第 24 次調査	矢畑字金山 90番4ほか 7筆	株式会社斉藤建設	宅地造成	1月18日 ~ 2月10日	86. 5

(4) 立会調査等

文化財保護法に基づく届出等に対し、県より発掘調査、立会、慎重工事などの指示が出される。これらに伴い、発掘調査における調査立会や完了立会のほか、工事中における立会を実施し、必要な指導や記録の作成を行っている。令和2年度に実施した立会調査は66件である。

(5)会議等

ア 市町村埋蔵文化財保護行政連絡協議会

・定例会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催

イ 県・市町村埋蔵文化財検討分科会

日時:第1回令和2年8月4日(火)

第2回令和2年12月8日(火)

場所:神奈川県埋蔵文化財センター

(6) 出土品資料等整理

開発事業等に伴い実施された埋蔵文化財調査に係る資料は年々増加しており、多数収蔵されている。こうしたことから、収蔵資料の内容確認と再整理を行うことで、学校教育ならびに社会教育での活用を可能にすることを目的とする。なお、本事業は国および県からの補助を受けて実施している。

ア 出土品資料等収蔵整理

期間:令和2年4月1日(月)~令和3年3月31日(火)

整理場所:茅ヶ崎市梅田文化財収蔵庫

整理主体: 茅ヶ崎市教育委員会

担当者:加藤大二郎(市社会教育課) 概要:ア.収蔵庫などの現況把握

イ. 発掘調査一覧補遺作成

- ウ. 遺物整理分類作業
- 工. 集計·台帳記入作業

イ 公共事業に伴う発掘調査・報告書作成

本事業については、事業課との委託契約に基づき公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 (以下「財団」という)が担っていたが、財団の埋蔵文化財部門の廃止を受け、市教育委員会では発 掘調査体制の整備を前提に令和2年度から本事業を引き継いで実施することとなった。事業に係る経 費については事業主管課負担となっている。令和2年度は公共下水道埋蔵文化財調査報告書の作成を 実施した。

期間:令和2年4月1日(水)~令和3年3月31日(水)

整理場所:茅ヶ崎市文化財調査事務所

整理主体:茅ヶ崎市教育委員会 担当者:三戸智也(市社会教育課)

概要:ア.遺物整理分類作業

イ.遺物実測・トレース

ウ. 報告書執筆・挿図、写真図版作成

(7) 普及・啓発

ア 茅ヶ崎市遺跡調査発表展示会

発表会

第31回目を数える茅ヶ崎市遺跡調査発表会は、茅ヶ崎市教育委員会の主催で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場での発表会については中止し内容を変更して実施した。令和元年度に市内で行われた発掘調査19件について発表要旨を作成するとともに、そのうち7件について発表動画を作成し「ちがさき動画ライブラリー」で公開した。 内容は以下の通りである。

日時:令和2年3月26日(金)~動画公開

場所:ちがさき動画ライブラリー

主催:市教育委員会

発表要旨内容「令和元年度埋蔵文化財調査等の動向」・・・茅ヶ崎市教育委員会 三戸智也

[史跡関連確認調查報告]

- 1 下寺尾 西方遺跡第7次確認調査・・・加藤大二郎(茅ヶ崎市教育委員会)
- 2 下寺尾 西方遺跡第8次確認調査・・・大村 浩司 (茅ヶ崎市教育委員会)
- 3 下寺尾 西方遺跡第 9 次確認調査・・・加藤大二郎 (茅ヶ崎市教育委員会)
- 4 下寺尾 西方遺跡第10次確認調査・・・加藤大二郎(茅ヶ崎市教育委員会)
- 5 鶴嶺八幡横参道(浜之郷 宮ノ腰遺跡・本社 A 遺跡)確認調査

・・・大村 浩司・三戸 智也(茅ヶ崎市教育委員会)

[市内発掘調査報告(自然堤防地帯)]

- 6 西久保 大屋敷 B 遺跡第12次調査・・・加藤大二郎 (茅ヶ崎市教育委員会)
- 7 西久保 大屋敷 B 遺跡第13次調査・・・三戸 智也(茅ヶ崎市教育委員会)
- 8 西久保 大屋敷 B 遺跡第 14 次調査・・・田中 竜星 (株式会社四門)
- 9 浜之郷 本社 A 遺跡第 13 次調査・・・加藤大二郎 (茅ヶ崎市教育委員会)
- 10 下町屋 石原 A 遺跡第 10 次調査・・・三戸 智也 (茅ヶ崎市教育委員会)

- 11 浜之郷 石原 A 遺跡第 11 次調査
 - ・・・渡辺 務 (株式会社アーク・フィールドワークシステム)
- 12 浜之郷 石原 B 遺跡第 11 次調査
 - ・・・渡辺 務 (株式会社アーク・フィールドワークシステム)
- 13 矢畑 金山遺跡第23 次調査・・・鈴木 綾(茅ヶ崎市教育委員会)
- 14 矢畑 鐘ヶ谷遺跡第4次調査・・・大坪 宣雄(有限会社吾妻考古学研究所)

[市内発掘調査報告(砂州·砂丘地帯)]

- 15 赤羽根 二図 B 遺跡第7次調査・・・大坪 宣雄(有限会社吾妻考古学研究所)
- 16 室田 東ノ町遺跡第3次調査
 - ・・・市川 正史 (株式会社アーク・フィールドワークシステム)
- 17 菱沼 巳待田遺跡第3次調査
 - ・・・渡辺 務(株式会社アーク・フィールドワークシステム)
- 18 本村 居村 A 遺跡第 10 次調査・・・大坪 宣雄(有限会社吾妻考古学研究所)
- 19 本村 前ノ田遺跡第6次調査
 - ・・・渡辺 務 (株式会社アーク・フィールドワークシステム)

・展示会

令和2年度に実施した下寺尾西方遺跡第8~13次確認調査についての速報及び令和2年度の発掘調査地点の成果について展示を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、展示室での展示会については中止した。

イ 講師対応

小中学校で行われている総合的な学習の時間や、市民対象のまなび講座などへの対応で、以下の講義を行った。

日 付	タイトル	講師
9月 9日(水) 9月15日(火)	松浪小学校 縄文時代から弥生時代の茅ヶ崎と日本の歴史 (新型コロナウイルスまん延防止のため、クラス毎に実施)	加藤大二郎 (市社会教育課)
9月17日(木) (動画譲渡日)	小出遺跡学習会⑩ 史跡と遺跡を学びましょう (令和元年度3月実施予定であったものを、新型コロナウイルスまん延防止のため、動画にて対応)	加藤大二郎(市社会教育課)
9月25日(金)	香川小学校コラボ授業① 小出で見つかったコレはなんだろう	香川小学校教諭
9月29日(火)	関東学院大学講義 (オンライン) まちを特徴づける文化づくり	加藤大二郎 (市社会教育課)
9月30日(水)	香川小学校コラボ授業② 小出で見つかった遺跡のお話	加藤大二郎 (市社会教育課)
10月23日(金)	明治大学 茅ヶ崎市の文化財保護行政と学芸業務	加藤大二郎 (市社会教育課)
1月22日(金)	小出小学校コラボ授業① 小出で見つかったコレはなんだろう	小出小学校教諭
2月 8日(月) (動画譲渡日)	小出小学校コラボ授業② 小出で見つかった遺跡のお話 (新型コロナウイルスまん延防止のため、動画にて対応)	加藤大二郎 (市社会教育課)

(8) 刊行物

- ・茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告 58 『公共下水道布設関連遺跡調査報告 1 ~平成 13 (2001)年度発掘調査~』 300 部
- ・茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告59『国史跡下寺尾官衙遺跡群I~相模国高座郡家の調査(西方遺跡第1次確認調査~』300部
- ・茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告60『市内遺跡試掘・確認調査報告XIX~平成31・令和元(2019) 年度実施の埋蔵文化財試掘・確認調査報告~』300部

(9) 資料貸出・使用承認

·承 認 先 朝日新聞出版書籍編集部

目 的 近江俊秀著『海から読み解く日本古代史』本文挿図として掲載のため

資料内容 下寺尾官衙遺跡群遠景

·承 認 先 神奈川県教育委員会

目 的 令和2年度かながわの遺跡展 展示パネル・図録等に掲載のため

資料内容 史跡旧相模川橋脚「出現当時の橋脚」、史跡旧相模川橋脚「整備状況」

•承 認 先 日本遺跡学会

目 的 『遺跡学研究』17号に挿図として掲載のため

資料内容 出現当時の橋脚

・承 認 先 フリーマガジンCheeega

目 的 Cheeega8月1日号「ちーがさんぽ」挿図として掲載するため

資料内容 鶴嶺八幡宮参道と松並木の様子 (絵はがき)

・承 認 先 公益社団法人 俳人協会

目 的 俳人協会60周年記念誌を作成するため

資料内容 净見寺墓所近景写真

· 承 認 先 神奈川県立歴史博物館

目 的 神奈川県立歴史博物館特別陳列、「出土文字資料からみる古代の神奈川」に展示するため

資料內容 本村居村遺跡出土木簡(6点)

(10) 文化財資料の管理

資料保管施設

• 梅田文化財収蔵庫

茅ヶ崎市十間坂三丁目 6-1 7 に所在。昭和 63 年に建設され、その後平成 3 年には増築が行われた。 重量鉄骨 2 階建で、1 階部分は埋蔵文化財関連資料 (出土資料・記録資料)を収蔵し、一部出土品整理作業のスペースとして併用している。 2 階は主に民俗資料を収蔵している。

文化財調查事務所

茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目 5-4 6 に所在。平成 13 年に建設されたプレハブ 2 階建で、資料収蔵と整理スペースを有している。 1 階は出土品資料の収蔵と整理作業スペース、 2 階は記録資料収蔵と整理作業スペースとして利用している。なお、本施設は 1 階の一部が放課後の学童保育所として使用されている複合施設である。

・ 茅ヶ崎市立鶴が台小学校内収蔵室

茅ヶ崎市鶴が台12-1に所在。復元された土器類や造形保存資料を中心に保管・収蔵をしており、 一部展示も行っている。また、関連図書資料も保管している。

· 赤羽根中学校内収蔵室

茅ヶ崎市赤羽根3030に所在。平成27 (2015)年8月より収蔵スペースとして使用している。茅ヶ崎市営野球場の使用が困難になったため、中学校内の一部に出土資料を移転した。また、梅田文化財収蔵庫に収蔵されている資料のうち、整理作業が終了した資料の一部も収蔵されている。

• 旧小和田消防出張所

茅ヶ崎市松浪二丁目3-37に所在。平成29年5月より収蔵開始。茅ヶ崎市役所旧庁舎の解体に伴い、仮収蔵スペースとして使用している。

(11)関係図書資料の交換・寄贈

令和2年度 交換·寄贈関係図書資料一覧

⊤和∠平及	文揆·台馆岗派凶音貝科一見 			
都道府県名	寄 贈 機 関 名	書名		
岩手県	奥州市教育委員会	国指定史跡胆沢城跡第 I 期外郭南門地区保存整備事業		
	rio III da III d	報告書		
	奥州市埋蔵文化財調査センター	明神下遺跡		
	平泉文化遺産センター	祇園 I 遺跡第3次・第4次発掘調査報告書		
		特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVI		
		平泉遺跡郡発掘調査報告書		
		名勝 旧観自在王院庭園発掘調査報告書		
山形県	山形県教育委員会	山形市埋蔵文化財調査年報(平成 29 年度)		
		山形市埋蔵文化財調査年報(平成30年度)		
		山形市無形民俗文化財調査報告書		
		史跡山形城跡発掘調査報告書(二ノ丸土塁)		
福島県	いわき市教育委員会	山下谷遺跡		
		梅ノ作瓦窯跡群		
	公益財団法人いわき市教育文化事	泉第三土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告 X		
	業団	東日本大震災記録誌 100 年後に届ける記録		
茨城県	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	浅間台一字一石経塚・西宮 A 遺跡・北西原遺跡(第 8		
		次)		
		第23回企画展 古代から中世へ		
		土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第26号		
群馬県	伊勢崎市教育委員会	伊勢崎城跡 2		
		喜多町遺跡 4		
		千木遺跡・下茂呂古墳群 2		
		平成 30 年度市内遺跡確認調査報告書		
	前橋市教育委員会	群馬県前橋市 西大室上縄引遺跡Ⅱ		
		群馬県前橋市 天神風呂N地点遺跡		
		元総社蒼海遺跡群 (99)		
		元総社蒼海遺跡群(127)		
		元総社蒼海遺跡群(134)		
		元総社蒼海遺跡群(135)		
		元総社蒼海遺跡群(136)		
		元総社蒼海遺跡群(137)		
		元総社蒼海遺跡群(138)		
		元総社蒼海遺跡群(139)		
		史跡女堀保存活用計画書		
L	I			

都道府県名	寄贈機関名	書名
群馬県	前橋市教育委員会	推定 上野国府 平成 29 年度調査報告
		推定 上野国府 平成 30 年度調査報告
		前橋城(市役所西地点)
		総社古墳群範囲内容確認調査報告書 I
		年報 第 48 集
		年報 第49集
	株式会社シン技術コンサル	群馬県伊勢崎市下渕名遺跡 14
	高崎市教育委員会	史跡日高遺跡保存整備事業報告書I
	太田市教育委員会	文化財だより No. 18
	有限会社毛野考古学研究所	群馬県伊勢崎市南原遺跡 15
埼玉県	さいたま市遺跡調査会	埼玉県さいたま市 A-146 号遺跡 (第3次)
		埼玉県さいたま市 下野田本村遺跡(第10・11・12次)
		埼玉県さいたま市 根岸遺跡 (第12次)
		埼玉県さいたま市 山崎貝塚 (第8次)
		埼玉県さいたま市 上太寺東遺跡 (第2次)
		埼玉県さいたま市 大谷場小池下遺跡 (第2次)
		埼玉県さいたま市 巽遺跡ほか14遺跡発掘調査報告
		埼玉県さいたま市 中川稲荷山遺跡 (第7次)
		埼玉県さいたま市 塚本西耕地遺跡 (第2次)
		埼玉県さいたま市 明花南遺跡 (第4次)
	熊谷市教育委員会	諏訪木遺跡IV
		諏訪木遺跡V 上之古墳群第3・4号墳
		肥塚古墳群Ⅱ・肥塚館跡
		緑川遺跡
	坂戸市教育委員会	入西石塚古墳出土遺物整理報告書
		埋文さかど年報 平成30年度発掘調査
	所沢市教育委員会	所沢市立埋蔵文化財調査センター 年報 No. 25
		海谷遺跡 宮前遺跡
		市内遺跡調査報告書 26
		東の上遺跡
	深谷市教育委員会	熊野遺跡(第 180 次)
		白山遺跡VI
	朝霞市教育委員会	蛇窪遺跡第2地点発掘調査報告書
		朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告集報 9
	鶴ヶ島市遺跡調査会	鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告 第87集
		鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告 第88集
	鶴ヶ島市教育委員会	鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ
	飯能市教育委員会	飯能市 向原 A/芦苅場 (第1分冊)
		飯能市 向原 A/芦苅場 (第2分冊)
		飯能市 向原 A/芦苅場 (第3分冊)

都道府県名	寄贈機関名	書名
埼玉県	蓮田市教育委員会	閏戸野久保遺跡
		椿山遺跡
千葉県	我孫子市教育委員会	下ヶ戸貝塚VⅡ
		令和元年市内発掘調査報告書
	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館 要覧 2020 年度
		国立歴史民俗博物館研究報告 第 219 集
		国立歴史民俗博物館研究報告 第 220 集
		国立歴史民俗博物館研究報告 第 221 集
		国立歴史民俗博物館研究報告 第 222 集
	酒々井町教育委員会	本佐倉城跡国史跡指定 20 周年記念事業講演会記録集 「敵を阻む城、にぎわう城下〜戦国時代の本佐倉城と 千葉氏の歴史」
	松戸市教育委員会	小金城跡 第16地点の調査
		平成 30 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書
		小野遺跡第18・20地点発掘調査報告書 下水遺跡第13 地点【報告書補遺】
		千葉県松戸市大谷口遺跡第3地点・小金城跡第17地点 発掘調査報告書
	船橋市教育委員会	取掛西貝塚 1万年前の貝塚からみえる暮らしと環境
		千葉県船橋市 上ホシ遺跡 (1)
		東中山遺跡群(68)発掘調査報告書
		東中山遺跡群(69)発掘調査報告書
		東中山遺跡群(71)発掘調査報告書
		東中山遺跡群(72)発掘調査報告書
		令和元年度 船橋市内発掘調査報告書
東京都	ふるさと府中歴史館	武蔵国府関連遺跡調査報告
	株式会社パスコ	愛宕下武家屋敷群-鎧小路南地区遺跡 発掘調査報告 書 第1冊分
		愛宕下武家屋敷群-鎧小路南地区遺跡 発掘調査報告 書 第2冊分
	株式会社四門	東京都町田市 新屋敷遺跡発掘調査報告書
		東京都品川区池田山北遺跡
		麻布田嶋町町屋跡遺跡発掘調査報告書
		上ホシ遺跡 (1)
	株式会社東京航業研究所	東京都北区 田端不動坂遺跡
	共和開発株式会社	東京都板橋区成増天神遺跡横穴墓群発掘調査報告書一成増五丁目11番地点
	慶應義塾大学文学部民族学考古学	日吉台遺跡群発掘調査報告書-2006~2014 年度の調査
	研究室	成果一
		慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究Ⅱ
	公益社団法人日本文化財保護協会	埋蔵文化財調査要覧 令和2年度

都道府県名	寄贈機関名	書名
東京都	公益社団法人日本文化財保護協会	公益社団法人日本文化財保護協会 紀要
		飛天
	江戸川区教育委員会	江戸川区文化財年報
		東京都江戸川区 上子岩遺跡 第 138 地点
	港区教育委員会	港区埋蔵文化財調査年報 15
		港区埋蔵文化財調査年報 16
		飯倉町一丁目町屋跡遺跡 発掘調査報告書
	港区立郷土歴史館	歴史館ニュース 第3号
		歴史館ニュース 第4号
		歴史館ファイル vol.1
		特別展図録 港区と皇室の近代
		令和元年度 港区指定文化財
	小平市教育委員会	鈴木遺跡
	西東京市教育委員会	東京都西東京市 下野谷遺跡 第31次調査
	早稲田大学考古学会	古代 第 147 号
		古代 第164号
	早稲田大学史学会	史観 第 182 冊
		史観 第 183 冊
	大成エンジニアリング株式会社	神谷町町屋跡遺跡 発掘調査報告書Ⅱ
	中央大学文学部日本史学専攻	大日野原遺跡 一第4次発掘調査-
	朝日新聞出版	海から読み解く日本古代史
	調布市郷土博物館	郷土博物館だより No.82
		調布の文化財 第59号
		調布の文化財 第61号
	東京大学埋蔵文化財調査室	東京大学構内遺跡調査研究年報 13 2019 年度
		東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 14
		東京大学本郷構内の遺跡
		医学部教育研究棟地点 研究編
	特定非営利活動法人 文化遺産の 世界	文化遺産の世界 Vol.36
	八王子市教育委員会	国史跡八王子城跡 XX
		国史跡八王子城跡 XXⅡ
	府中市遺跡調査会	府中市埋蔵文化財報告 第64集
		府中市埋蔵文化財報告 第65集
	府中市文化スポーツ部ふるさと文 化財課	武蔵国府の調査 50-平成 28 年度府中市内遺跡発掘調 査概報
	北区飛鳥山博物館	史跡 中里貝塚 保存活用計画
		北区埋蔵文化財調査年報
	有限会社アルケーリサーチ	東京都西東京市 下野谷遺跡第 30 次調査報告書
	練馬区 地域文化部	埋蔵文化財調査報告 34
L		

都道府県名	寄贈機関名	書名
東京都	文化・生涯学習課 伝統文化係	令和元年度葛飾区埋蔵文化財調査報告・年報
	大成エンジニアリング株式会社	天徳寺寺域第5遺跡 発掘調査報告書
神奈川県	NPO 法人 鎌倉考古学研究所	かまくら考古
	綾瀬市教育委員会	国指定史跡 神崎遺跡 保存整備報告書
		深谷柳川遺跡・中尾遺跡
	横須賀市教育委員会	史跡東京湾要塞跡 千代ヶ崎砲台跡
		平成 30 年度新指定重要文化財等調査報告
		埋蔵文化財発掘調査概報集 XXV I
	横浜市教育委員会	港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 52
	LIL D. A. LI. L. INST	神隠丸山遺跡 I
	株式会社 博通	宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書
		材木座町屋遺跡発掘調査報告書
		笹目遺跡発掘調査報告書
		若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書
		西御門遺跡発掘調査報告書
		北条時房・顕時邸跡発掘調査報告書
		名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書
	株式会社イビソク	神奈川県厚木市林南遺跡第8地点発掘調査報告書
		相模原市 大島古清水遺跡 第2地点
	株式会社環境事業計画研究所	名勝及史跡円覚寺庭園 白鷺池環境整備報告書
	株式会社玉川文化財研究所	山王 B 遺跡第 14 地点
		七ノ域遺跡第10地点
		煤ヶ谷古在家遺跡第3地点
		平塚城跡第2地点
		下森鹿島遺跡群 発掘調査報告書
		御幣山遺跡第9次調査 発掘調査報告書
		三田林根遺跡第2地点
		神奈川県横浜市 富士塚表谷遺跡 発掘調査報告書
		2020. 6
		神奈川県三浦市 新井城跡 発掘調査報告書 2020.3
		神奈川県平塚市新町遺跡第 10 地点 2020.3
	株式会社斉藤建設	材木座町屋遺跡 (No. 261) 発掘調査報告書
		神奈川県鎌倉市 宇津宮辻子幕府跡 (No. 239) 発掘調
		查報告書
	株式会社武蔵文化財研究所	神奈川県座間市 下谷遺跡第4次調査
	鎌倉市教育委員会	鎌倉の埋蔵文化財 23
		鎌倉市教育委員会文化財部 調査研究紀要 第2号
		鎌倉市文化財年報
		鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 36 (第1分冊)
		鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書36(第2分冊)

都道府県名	寄贈機関名	書 名
神奈川県	寒川町教育委員会	平成 28・29 年度試掘調査倉見大村遺跡第6次調査
	公益財団法人かながわ考古学財団	旧石器時代の遺跡立地 -相模野台地を中心に-
		研究紀要 25 かながわの考古学
		考古学財団発掘帖 No. 33
		考古学財団発掘帖 No. 34
		年報 26 平成 30 年度
		令和2年度発掘調査結果発表会資料集
		東富岡・南三間遺跡第2次調査 東富岡・北三間遺跡
		第3次調査 東富岡・東之窪遺跡
	山北町教育委員会	足柄乃文化 第 47 号
	小田原市	「令和元年小田原市遺跡調査発表会」発表要旨
		遺跡講演会「小田原の史跡を語る」資料集
		久野諏訪原遺跡第VI地点
		高田南原遺跡第Ⅲ地点
		高田北之前遺跡第Ⅲ地点
		小田原の遺跡探訪シリーズ 15「小田原城総構-戦国最
		大の城郭一」
		小田原城三の丸鉄砲矢場第IV地点
		小田原城総構二重外張第Ⅱ地点
		平成 20 年度試掘調査
	湘南考古学同好会	湘南考古学同好会々報 159
		湘南考古学同好会々報 160
		湘南考古学同好会々報 161
		湘南考古学同好会々報 162
	神奈川県教育委員会教育局	「神奈川県埋蔵文化財センター年報」32
	生涯学習部文化遺産課	「神奈川県埋蔵文化財調査報告」66
		令和2年度 かながわ遺産展展示目録
	神奈川県民俗芸能保存協会	かながわの民俗芸能 第84号
	逗子市教育委員会	神奈川県逗子市埋蔵文化財緊急調査報告書 14-平成
		28 年度-
	川崎市教育委員会	川崎市埋蔵文化財調査報告書第12集
		川崎市文化財調査集録第53集
		川崎市文化財調査集録第54集
		平成 28 年度川崎市埋蔵文化財年報
		平成 29・30 年度川崎市埋蔵文化財年報
		川崎市多摩区長尾妙楽寺北遺跡報告書
	相模原市教育委員会	溝口桂巌屋敷跡 根小屋の富士塚 相生の塚
	相模原市博物館	真・津久井城展
		津久井城跡資料調査報告書
	大磯町郷土資料館	資料館だより 41 号

都道府県名	寄贈機関名	書名
神奈川県	大磯町郷土資料館	年報 一令和元年度一
	藤沢市教育委員会	市内遺跡試掘・確認調査報告1
		石川稲荷山遺跡第1次調査発掘調査報告書
		石川鍛冶山西遺跡第2次調査発掘調査報告書
		藤沢市文化財調査報告書 第55集
		南鍛冶山遺跡発掘調査報告書 第16巻 古代12
	特定非営利活動法人 鎌倉考古学	かまくら考古 第45号
	研究所	かまくら考古 第46号
	箱根町教育委員会	神奈川県足柄下郡箱根町 史跡 箱根旧街道保存活用 計画
	箱根町立郷土資料館	企画展図録『箱根登山鉄道のあゆみ』
	平塚市教育委員会	稲荷前 B 遺跡
		厚木道遺跡
		平塚市 北金目塚越/大会原/天魔
	平塚市博物館	よみがえる少年の日々 - 佐草健ボールペン画展-
		平塚市博物館研究報告 2019年 自然と文化 No.43
	平塚市埋蔵文化財調査事務所	平塚市試掘・確認調査報告書 3
	睦合文化財株式会社	神奈川県秦野市 金堀塚古墳群
新潟県	十日町教育委員会	野首遺跡発掘調査報告書Ⅲ (遺物編 2)
富山県	富山県埋蔵文化財センター	埋文とやま VOL. 153
山梨県	甲斐市教育委員会	金の尾遺跡
		御岳田遺跡 7
		御岳田遺跡 8
		御岳田遺跡 9
		甲斐市指定有形文化財天澤寺山門保存修理工事報告書
		松ノ尾遺跡 15
長野県	佐久市教育委員会	岩村田遺跡群 西一本柳遺跡XXⅢ
		根々井居屋敷遺跡I
		佐久市文化財『年報 28』平成 30 年度(2018)
		市内遺跡発掘調査報告書 2018
		芝宮遺跡群 下曽根遺跡XI
		芝宮遺跡群 南上中原遺跡Ⅱ
		周防畑遺跡群 大豆田遺跡 VⅡ
		西近津遺跡群 西近津遺跡XⅢ
		前田遺跡群 前田遺跡VI
		長土呂遺跡群 下聖端遺跡VⅡ
		柳坂遺跡 I
	諏訪市教育委員会	長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書
岐阜県	各務原市埋蔵文化財センター	かがみがはら百科
	関市役所	関市市内遺跡発掘調査報告書 平成 29 年度
	<u> </u>	I

岐阜県	関市役所	関市小瀬鵜飼習俗調査報告書Ⅲ
		関市埋蔵文化財発掘調査報告書
		速報 関市発掘調査展
静岡県	伊豆の国市文化財課	伊豆の国市 文化財年報 7
111 1. 321		伊豆の国市郷土資料館 資料館だより Vol.1
		伊豆の国市郷土資料館 資料館だより Vol.2
		伊豆の国市郷土資料館 資料館だより Vol.3
	掛川市教育委員会	吉岡下ノ段遺跡第14次・吉岡原遺跡第14次 発掘調
		查報告書
		林遺跡第7次発掘調査報告書
	根堅遺跡調査団	浜松市北区根堅遺跡発掘調査報告書
	静岡市教育委員会	ふちゅ~る No. 29
		小里前遺跡・庵原館跡(第5次)
		尾羽廃寺跡
		有東遺跡(第33次)
	静岡市埋蔵文化財センター	恩田原遺跡
		駿府城跡天守台まるごと発掘③-平成30年度発掘調
		查概報一
		静岡市内遺跡群発掘調査報告書(平成 31 年度・令和
		元年度) 村下遺跡(第2次発掘調査)
	浜松市教育委員会	浜松城下町遺跡 2
	浜松市地域遺産センター	高塚町村西遺跡
		史跡 二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用計画
		東畑屋遺跡2-4次調査の成果-
		浜松城跡 26 次調査の概要
		平成30年度浜松市文化財調査報告
	富士市教育委員会	字東川遺跡 Z 地区
	田工川秋月安良云	沖田遺跡第 155 次調査地点
		梶子遺跡 23 次
愛知県	公益財団法人瀬戸市文化振興財団	公益財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
		研究紀要第 22 輯
		折戸(0)-G-17 号窯跡発掘調査報告書
	豊橋市教育委員会	吉田城跡(XIV)
		吉田城址(XVI)
		市内遺跡発掘調査-平成29年度-
		西側遺跡(VII)・眼鏡下池北遺跡(IX)
	豊田市教育委員会	第82集 神明遺跡 I V
		第83集 寺部遺跡 X
		第84集 寺部遺跡 X I
		平成 30 年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書

都道府県名	寄贈機関名	書名
三重県	四日市市教育委員会	久留倍官衙遺跡整備ニュース vol. 12
		久留倍官衙遺跡整備ニュース vol. 13
大阪府	泉南市埋蔵文化財センター	泉南市遺跡群発掘調査報告書三七
奈良県	公益財団法人桜井市文化財協会	令和 2 年度企画展 炎を操る~古代人と火にまつわる
		物語~
	桜井市教育委員会	桜井市 平成30年度国庫補助による発掘調査報告書
		史跡 纒向遺跡第1期整備事業報告書
		茶ノ木塚古墳
		奈良県桜井市 脇本遺跡の調査
		令和元年国庫補助による発掘調査報告書
	独立行政法人国立文化財研究所	埋蔵文化財ニュース第 178 号
	奈良文化財研究所埋蔵文化財セン	埋蔵文化財ニュース第 179 号
	ター	埋蔵文化財ニュース第 180 号
		埋蔵文化財ニュース第 181 号
鳥取県	鳥取県	鳥取県鳥取市青谷町 青谷上寺地遺跡 15
広島県	府中町教育委員会	下岡田遺跡発掘調査報告書 I
佐賀県	唐津市教育委員会	黒岩前田遺跡
		谷口石切丁場跡
		唐津市内遺跡確認調査(36)